

導入ゼミ（地域研究入門）

(First Year Student Seminar)

担当教員名 加藤 裕美				
科目区分 一般 必修	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	メールで事前連絡の上、随時受け付ける。			
メールアドレス	kato のあとに@と fpu. ac. jp を付ける。			
授業概要	このゼミでは、鯖江市河和田地区を対象に地域社会を調べ、分析する手法について入門的に学んでいく。資料収集や情報収集のしかた、対象の調査方法、課題の発見、調査結果のまとめ方、レポートの書き方、発表のしかたなど、大学生活に必要な基本的な学習スキルの習得をおこなう。授業では、フィールドワークやグループワークを積極的に取り入れる。			
到達目標	1. 資料収集や情報収集のしかたを習得する。 2. グループの人と意見交換をし、地域の特徴把握、課題発掘、解決策の提案をすることができる。 3. グループの人と協力して調査結果をまとめ、わかりやすい発表をすることができる。			
授業計画・内容				
このゼミでは、鯖江市河和田地区を対象に地域社会の調べ方を学んでいく。グループで地域の課題を発掘し、解決方法の提案をおこなう。最終的には、グループで調べた結果をまとめ、発表することを最終目標とする。 第1回 授業ガイダンスと自己紹介 ・ ・ ・ 授業の受け方、自己紹介 第2回 コミュニケーション能力を高めよう ・ ・ ・ 他己紹介 第3回 地域を分析する視点 ・ ・ ・ 地域研究についての入門講義 第4回 資料収集と情報収集 ・ ・ ・ 図書、論文、情報収集のしかた 第5回 地域の特徴を把握する ・ ・ ・ 対象地域に関する講義 第6回 地域の課題を発掘する ・ ・ ・ 地域課題に関する講義 第7回 フィールドワーク (5/18) ・ ・ ・ 鯖江市河和田地区におけるフィールドワーク 第8回 フィールドワーク (5/18) ・ ・ ・ 鯖江市河和田地区におけるフィールドワーク 第9回 中間まとめ 第10回 調べた結果のまとめ方 ・ ・ ・ グループワーク 第11回 レポートの書きかた ・ ・ ・ 良いレポートとは？ 第12回 スライドの作り方 ・ ・ ・ 見やすいスライドとは？ 第13回 口頭発表のポイント ・ ・ ・ 聞きやすい口頭発表とは？ 第14回 グループ発表 ・ ・ ・ 結果を報告しよう 第15回 相互評価 ・ ・ ・ 良くできた点、改善点を振り返ろう * 遠隔授業の場合、Google Classroom を用いた資料の配布と、Zoom を用いたオンライン授業を行う。 * 鯖江市河和田地区でのフィールドワークを5月18日（土）に実施予定である。雨天の場合は5/19（日）に延期する。				
キーワード	地域研究、文化人類学、地域活性化、課題発掘			
教科書	なし。教員が作成したレジュメを毎回配布する。			
参考書	授業中に適宜紹介する。			

評価方法・評価基準	授業への出席を重視する。(1)授業中の積極的な発言、(2)グループワークにおける協働、(3)課題の提出やスライドを使った発表により、学習内容の習得状況を評価する。遠隔授業になった場合の評価方法も同じである。
関連科目	観光学、社会学、地理学、福井を学ぶ
履修要件	フィールドワークに参加できる人
必要な事前・事後学習	・事前学習は、日ごろから現代社会の話題についてニュースや新聞などから情報収集をしておくこと。 ・事後学習は、配布したレジュメを読み直すこと。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 実務経験のあるゲストスピーカーによる授業をおこなう
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	・ゲストスピーカーによる授業を含む。 ・状況により授業の順番が前後する可能性がある。

導入ゼミ（「学校あるある」を考える）

(First Year Student Seminar)

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分 一般 必修	授業方法 演習・実習	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	木曜 3 限目 経済学部棟 4 階 407			
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp			
授業概要	学校には不思議な風習・文化がたくさんあります。当たり前と思っていた自分の学校経験が実は多くの人にとっては当たり前と思えないことかもしれません。本授業では、受講者が経験してきた小学校～高等学校までの「学校あるある」を題材にしながら、大学での学びの基礎を学んでいきます。			
到達目標	1. 文献等を批判的に読解し、科学的に考察することができる。 2. 分かりやすく、効果的なプレゼンテーションができる。 3. 引用を適切に行い、論理的なレポートを書くことができる。 4. 多様な意見を受容しながら、協働的で発展的な議論ができる。			
授業計画・内容				
第 1 回：イントロダクション 第 2 回：チームビルディング①－伝えよう 第 3 回：チームビルディング②－議論しよう 第 4 回：チームビルディング③－考察しよう 第 5 回：チームビルディング④－発表しよう 第 6 回：「学校あるある」を共有しよう－テーマの設定と探究の方法 第 7 回：「学校あるある」を科学的に考えてみよう－文献読解 第 8 回：「学校あるある」について議論してみよう－ディスカッションの技法 第 9 回：プレゼンテーションの方法とポイント－効果的なプレゼンテーションとはなにか 第 10 回：福井県教育博物館でのフィールドワーク 第 11 回：フィールドワークの成果報告－実際にプレゼンテーションをしてみよう 第 12 回：レポートの書き方①－「分かりやすく書くこと」と「論理的に書くこと」 第 13 回：レポートの書き方②－ツイッターとレポートの違い 第 14 回：人権特別講義の聴講(実施期日は未定) 第 15 回：まとめ ※遠隔授業時は zoom によるオンライン授業を行います				
キーワード	科学的思考、レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法、批判的議論			
教科書	適宜、資料を配付します			
参考書	適宜、紹介します			
評価方法・評価基準	評価方法：1. プレゼンテーション(40%)、2. レポート(30%)、3. ディスカッション(30%) 評価基準：プレゼンテーションによって授業目標 1 と 2 を、レポートによって授業目標 3 を、ディスカッションによって授業目標 4 を評価する ※遠隔の場合も評価方法に変更はありません			
関連科目	特になし			
履修要件	特になし			

必要な事前・事後学修	事前学修：プレゼンテーションの準備、文献の読み込み等 事後学修：ポートフォリオの作成等
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、学校をめぐる具体的事柄について解説する
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

導入ゼミ（J-POP 論）

(First Year Student Seminar)

担当教員名 村井耕二				
科目区分 一般 必修	授業方法 講義	対象学年 1	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	講義後の昼休みの教室			
メールアドレス	murai@fpu.ac.jp			
授業概要	J-POP のアーティストを 1 名（1 組）選び、そのアーティストの楽曲を 1 つ選ぶ。そのアーティストがその楽曲を作り出した背景やコンセプト、哲学などについて、自分の課題を定め、必要な情報を集め、情報を読み解き、理解し、考え、その結果を人に伝えるプレゼンテーションの中で、大学での学習に必要な技術を習得する。ここでいう J-POP アーティストとは、自ら楽曲を作成し演奏するミュージシャンを指す。			
到達目標	自主的学習態度を養う 情報収集能力を養う コミュニケーション能力を養う 自己表現能力、プレゼンテーション能力等の基本的技術を身につける			
授業計画・内容				
第 1 回 : ガイダンス（授業の進め方、自己紹介、その他） 第 2 回 : 各自の好きな J-POP アーティストについての説明プレゼンテーション その 1 第 3 回 : 各自の好きな J-POP アーティストについての説明プレゼンテーション その 2 第 4 回 : 各自の好きな J-POP アーティストについての説明プレゼンテーション その 3 第 5 回 : 各自の選んだアーティストの楽曲の視聴 その 1 第 6 回 : 各自の選んだアーティストの楽曲の視聴 その 2 第 7 回 : プレゼンテーションの基本技法 第 8 回 : グループディスカッション（コミュニケーションスキル、コラボレーションスキルの育成） 第 9 ～13 回 : 「J-POP 論」に関するプレゼンテーションとディスカッション 第 14 回 : 人権特別講義の聴講（実施期日は未定） 第 15 回 : まとめとレポート作成 遠隔授業の対応 : zoom および google classroom (GC) を使用する。				
キーワード	プレゼンテーション、ディスカッション、レポート、J-POP			
教科書	特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて授業において直接配布する。			
参考書	必要・希望に応じて紹介する。			
評価方法・評価基準	2 回のプレゼンテーション[課題 1] (30%)、[課題 2] (40%)、③レポート[最終課題] (30%) により総合的に評価する。遠隔授業の場合 : zoom でプレゼン、GC でレポート提出。			
関連科目				
履修要件	プレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進めるので、積極的な発言や意見交換が行えること。			
必要な事前・事後学習	各自選んだ J-POP 楽曲を十分に聞きこむこと。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 民間企業経験のある担当教員がプレゼンテーションの基本技法を教授する。			

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	J-POP ファンであることが望ましい。本講義で取り上げる J-POP アーティストとは、自ら楽曲を作成し演奏するミュージシャンを指すことに注意するように。

導入ゼミ（社会を科学する入門）

(First Year Student Seminar)

担当教員名 山本 涼平				
科目区分 一般・必修	授業方法 演習	対象学年 1	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	研究室（E308）で随時（事前にメール等で予約してください）			
メールアドレス	ryohei61 （@fpu.ac.jp をつけてください）			
授業概要	「科学」と聞くと物理学、化学、生物学など自然科学を想起するかもしれませんが、「社会科学」と呼ばれる分野があります。このゼミは、科学的なアプローチによって社会や人々の営みを研究する分野の入門です。「調べる」「読む」「書く」「伝える」「議論する」力を養成し、大学での学びの入門にもなります。			
到達目標	① 科学的なアプローチの基礎を理解できるようになる ② 主体的な調査・分析に基づいてレポートや資料を作成し、発表できるようになる ③ レポート作成の技法、質疑応答・議論の作法を身につける ④ 自分自身の大学での学修を方向づけられるようになる			
授業計画・内容				
①「大学で学ぶ」とはどういうことか、大学生生活の留意点について共有します。 第1回 ガイダンス（導入ゼミの目的・進め方）、大学生活と履修の留意点 第2回 発表形式の自己紹介、履修登録の確認 第3回 履修登録の確認、これまでの大学生活について ② 文献の輪読、担当箇所の発表、文献に基づく議論を演習します。 第4回 文献の読み方、引用・参照の作法、レポートの作成技法、発表と議論の作法 第5回～第9回 文献を選んで読解し、資料を作ってクラスで発表します。 文献は、次の候補のなかから参加者でトピックを選び、担当箇所を割り振ります。 ・鎌田雄一郎『ゲーム理論入門の入門』岩波新書、2019年。 ・坂井豊貴『マーケットデザイン 最先端の実用的な経済学』ちくま新書、2013年。 ③ 調査・分析・レポートの作成 関心のある社会問題や興味のある企業について調査・分析し、レポートを作成していきます。 第10回～第13回 調査・分析・レポートの作成・発表準備 第14回 発表会① 第15回 発表会② 上記の各回の進度は目安であり、参加人数等によって変動します。				
キーワード	社会科学 アカデミック・スキル アカデミック・リテラシー			
教科書	クラスで指示しますので、初回までに購入する必要はありません。			
参考書	クラスで指示します。			
評価方法・評価基準	・ゼミへの主体的な取り組み 20% ・文献の輪読・発表への取組・成果 40% ・調査・分析・レポートへの取組・成果 40% ※遠隔授業になった場合：Zoomにより実施し、評価方法は上記の通りです。			
関連科目	経済学部開講科目（特にミクロ経済学・経営学総論）			
履修要件	特になし			

必要な事前・事後学修	調査・分析、レポートの作成や発表資料の作成などは、能動的に授業外でも取り組む必要があります。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 港湾インフラに関する調査経験
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	もしモバイルPCやタブレット端末等を持参できる場合は、持参してください。ただし、持参できない場合でも、この授業のためだけに購入する必要はありません。

導入ゼミ（地域ビジョン論）

(First Year Student Seminar)

担当教員名 高野 翔				
科目区分 一般 必修	授業方法 講義・演習	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	授業の後やメールで連絡をください。			
メールアドレス	takano(アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください)			
授業概要	地域にビジョン(まちの未来像)がない、と言われて久しい。加えて、地域ビジョンがあってもどの街であるか認識できない魅力的でない事例が多い。そこで、地域ビジョンのグッドプラクティスからその効果を学び、また、自分達で地域ビジョンをつくり・社会実装する方法を学ぶ。			
到達目標	・ 地域ビジョンを通じて地域づくりの基礎を理解する。 ・ 地域づくりの重要な視点や基礎的な地域情報の収集力を身に付ける。 ・ 授業の主体的参画を通じてコミュニケーション力、発想力、プレゼンテーション力等を身に付ける。			
授業計画・内容				
第1回 ガイダンス（当該ゼミの目的と進め方）、大学生活のために必要なこと				
第2回 クラスメンバー紹介				
第3回 順調に受講・生活できているかの確認、レポートの書き方				
第4回 地域ビジョンとは何か？				
第5回 地域ビジョンのグッドプラクティス事例紹介				
第6回 地域づくりのグッドプラクティス事例紹介				
第7回 地域ビジョンのつくりかたと社会実装				
第8回 中間発表と討議（質疑応答）				
第9回 地域ビジョンのつくりかたと社会実装				
第10回 地域ビジョンのつくりかたと社会実装				
第11回 プレゼンテーションの方法				
第12回 グループワーク（発表に向けた準備）				
第13回 グループワーク（発表に向けた準備）				
第14回 発表と討議（質疑応答）①				
第15回 発表と討議（質疑応答）②、まとめ				
（遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を行う。）				
キーワード	地域ビジョン、地方創生、まちづくり、地域資源、プレゼンテーション			
教科書	『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる 山崎 亮（著）』 学芸出版社			
参考書	適宜、資料等を共有する。			
評価方法・評価基準	・ 授業への主体的姿勢(意欲・発言・協力) 40% ・ 最終プレゼンテーション 40% ・ 各種提出物 20% なお、遠隔授業となった場合も同様の評価方法・評価基準とする。			
関連科目	教養ゼミ(永平寺町学)			
履修要件	なし			

必要な事前・事後学修	
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 国際協力の現場での持続可能な国づくり経験及び福井でのまちづくり経験を持つ教員により、業務経験を活かした実践的な地域ビジョンのつくりかたと社会実装方法の基礎を学ぶ。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	授業の進行状況によって、スケジュールや内容などを変更することがある。 定員は 15 名。

職業指導論(商業)

(Vocational Guidance)

担当教員名 高橋 秀幸				
科目区分 教職 教科『商業』の免許は必修		授業方法 講義	対象学年 1～4 年	開講期 前期集中 単位数 2
オフィスアワー	授業の前後に質問等を受け付けます。			
メールアドレス	pt-htakahashi-g@g.fpu.ac.jp			
授業概要	職業指導とは生徒に職業選択や職業適性に関する支援を行う教育活動で、今日では進路指導・キャリア教育と言われている。職業指導は、単に就職指導・進学指導に限定されるものではなく、それぞれの生徒の自己実現に向けて、人間としてのあり方や生き方について考えさせなければならない。本講座では、社会状況の分析や職業についての考察を通じて、「職業指導」の意義を考え、職業指導の歴史的背景や実践について学習する。			
到達目標	1 学校教育における職業指導の在り方や意義を理解し、生涯にわたる職業観を育む指導ができる。 2 キャリア・カウンセリングの基礎知識を理解し、クラス担任または進路指導担当として生徒の進路指導が的確にできる。			
授業計画・内容				
第1回：授業ガイダンス、職業とは 第2回：人間社会と職業 第3回：若者の現状と社会情勢 第4回：高まる学校教育への期待、学習指導要領（商業、特別活動） 第5回：職業高校の今日の状況、課題と取り組み 第6回：職業意識形成の取り組み、中退・卒業後の支援 第7回：職業指導の意義、必要性 第8回：職業適性、個性、興味・関心と職業選択 第9回：職業指導の歴史的経緯 第10回：諸外国の職業教育 第11回：小中学校におけるキャリア教育 第12回：高等学校におけるキャリア教育（職業高校の取り組み） 第13回：キャリアカウンセリングの理論と技法 第14回：国民の勤労権と職業保障 第15回：進路指導の今後の課題、まとめ 第16回：定期試験 ※遠隔授業の場合の対応 Zoom、GC 併用による授業				
キーワード	キャリア教育 進路指導 職業指導			
教科書	特に指定しない。（適宜資料を配布）			
参考書	「高等学校学習指導要領・解説」（総則、特別活動、商業） 文部科学省 「キャリア教育ガイドブック」 経済産業省 「新時代のキャリア教育と職業指導」 佐藤史人ほか 法律文化社 など			
評価方法・評価基準	試験(40%)、レポート(40%)、授業への取組<主体的な取組態度、対話能力、出席状況など>(20%)を総合的に判定する。試験やレポートから知識の理解と習得の度合い、思考・判断・			

	表現力、授業への取組状況から主体性、関心、対話力を評価する。 ※遠隔授業の場合：レポート・質問等への回答等（50%）、試験（50%）とし、総合的に評価する。
関連科目	教職課程に関する科目
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	新聞等で教育、職業に関する最新情報について関心を持つ。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 職業高校での教諭や校長の勤務経験を活かして、職業指導に関する実務的な指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 職業指導
その他	高等学校教諭（商業）の免許状を取得するための必修科目 準備学習については、教員が講義時に指示する

教育原理

(Principle of Education)

担当教員名 國崎 大恩					
科目区分	教職 必修	授業方法 講義	対象学年 1・2・3 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407				
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp				
授業概要	本授業は、現代の教育・学校教育を取りまく多様な事象やシステムを教育思想史の観点から概説することで、教育の理念や歴史に関する理解を深めるとともに、現代的な教育課題を理論的・客観的に考察していく。 また、教育課程の編成に関する具体的事例の考察を通して、学校において編成される教育課程の意義や編成の方法、とりわけカリキュラム・マネジメントの意義と方法について理解を深める。				
到達目標	1)教育や学校に関わる思想を参照しながら、教育の本質及び目標について説明できる。 2)教育や学校の歴史をふまえ、現代における教育課題について説明できる。 3)具体的事例を通して、効果的な指導にむけたカリキュラム編成について説明できる。 4)カリキュラム・マネジメントに基づいて実践を改善する方法について説明できる。				
授業計画・内容					
第 1 回：現代における教育と学校教育－家族・地域・国家による教育と社会の中の教育課程 第 2 回：教育の本質と目標①－教育と「子育て」の関係性 第 3 回：教育の本質と目標②－学習・人間形成と家庭・国家・社会 第 4 回：教育の思想と歴史①－家族・共同体の教育的機能とその変遷 第 5 回：教育の思想と歴史②－〈子ども〉の誕生と近代の教育的まなざし 第 6 回：教育の思想と歴史③－近代教育学における理論と実践の問題 第 7 回：教育の思想と歴史④－新教育運動と子どもの経験の重視 第 8 回：教育の思想と歴史⑤－日本における学校教育の成立とその展開 第 9 回：教育課程の意義－教育課程と学習指導要領 第 10 回：教育課程の役割と機能－〈社会に開かれた教育課程〉とヒドゥン・カリキュラム 第 11 回：教育課程の編成事例①－教育課程の編成原理 第 12 回：教育課程の編成事例②－教科・領域を横断する教育課程 第 13 回：教育課程の編成事例③－単元・学期・学年をまたいだ教育課程 第 14 回：カリキュラム・マネジメント－教育改善の PDCA サイクル 第 15 回：カリキュラム・マネジメントの実際－事例を通して見る成果と課題 定期試験 ※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します					
キーワード	近代教育、近代公教育、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント				
教科書	『実践につながる教育原理』 國崎大恩・藤川信夫編著、北樹出版、2022 年				
参考書	『学習指導要領』 文部科学省、『学習指導要領解説 総則編』 文部科学省 (教科の教員免許取得を希望する学生は高等学校、養護教諭免許取得希望者は小学校のものを参照すること)				
評価方法・評価基準	以下の評価基準に関して、試験(60%)とポートフォリオ(40%)により総合的に評価する。 1)教育や学校に関わる思想を参照しながら、教育の本質及び目標について論理的・客観的に説明できる。 2)教育や学校の歴史をふまえ、現代における教育課題について歴史的観点から説明でき				

	る。 3) 具体的事例を通して、効果的な指導にむけたカリキュラム編成について具体的に説明できる。 4) カリキュラム・マネジメントに基づいて実践を改善する方法について客観的に説明できる。 ※遠隔時は定期試験をオンラインにより実施する。
関連科目	教育心理学、教育社会学、教育制度論、教育方法論、教師論、教育史
履修要件	教員免許状の取得を前提に授業をおこないます
必要な事前・事後学修	事前学修：事前に配布する資料を理解し、自分なりに授業のねらいを明確にする。 事後学修：各授業内容をふまえたポートフォリオを作成する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な場面を想定して講義をおこなう
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)
その他	教職の基盤となる科目です。積極的な受講態度を期待しています。

教養ゼミ（永平寺町学をつくる）

(Academic and Interdisciplinary Studies)

担当教員名 高野 翔				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義・演習	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	授業の後やメールで連絡をください。			
メールアドレス	takano(アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください)			
授業概要	本学の地元地域である永平寺町を舞台に、フィールドワークや地域診断、文化資源の見える化、地域編集を通じて、地域の暮らしの価値を発信する簡易なリトルプレス冊子としてまとめることを試みる。それらにより永平寺町の理解と地域づくりのダイナミズムを学ぶ。			
到達目標	・ リトルプレス作成を通じて永平寺町の地域づくりの基礎を理解する。 ・ 地域づくりの重要な視点や基礎的な地域情報の収集力や発信力を身に付ける。 ・ 授業への主体的参画を通じてコミュニケーション力、発想力、編集力等を身につける。			
授業計画・内容				
第1回 ガイダンス（当該ゼミの目的と進め方）、自己紹介				
第2回 チームビルディング（カードゲーム）				
第3回 永平寺町の事業紹介・地域データ（外部講師予定）				
第4回 永平寺町の歴史文化資源文脈・内容（外部講師予定）				
第5回 永平寺町フィールドワーク（場所未定）				
第6回 永平寺町フィールドワーク（場所未定）				
第7回 永平寺町の地域ビジョンの編集軸検討				
第8回 永平寺町の地域ビジョンの編集軸検討				
第9回 永平寺町の地域ビジョンの編集軸検討				
第10回 永平寺町フィールドワーク（場所未定）				
第11回 永平寺町フィールドワーク（場所未定）				
第12回 デザインの役割、リトルプレス冊子作成に向けたグループワーク				
第13回 リトルプレス冊子作成に向けたグループワーク				
第14回 リトルプレス冊子作成に向けたグループワーク				
第15回 リトルプレス冊子を基にした学びの振り返り時間、まとめ				
（遠隔授業の場合は zoom によるオンライン授業を行う。）				
【その他】				
「永平寺町学」は福井県立大学と永平寺町との連携により開講する授業である。内容やスケジュールなどは、永平寺町との議論を通じて変更する可能性がある。フィールドワーク受け入れ先等との協議を通じて最終決定する。また、フィールドワークの際は、終了時間が多少遅れる場合があることに留意。定員は15名。定員を超えた場合は、導入ゼミ（地域ビジョン論）履修者を優先する。15名全員で一冊のリトルプレス冊子をつくるため、メンバーで協働し活動できることが求められる。				
キーワード	地域ビジョン、まちづくり、ウェルビーイング、地域編集、フィールドワーク			
教科書	適宜、資料等を共有する。			

参考書	適宜、資料等を共有する。
評価方法・評価基準	・ 授業への主体的姿勢(意欲・発言・協力) 40% ・ リトルプレス冊子作成ワーク 40% ・ 各種提出物 20% なお、遠隔授業となった場合も同様の評価方法・評価基準とする。
関連科目	導入ゼミ(地域ビジョン論)
履修要件	フィールドワークやリトルプレス冊子作成に積極的に参加および協働できる学生
必要な事前・事後学修	
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 国際協力の現場での持続可能な国づくり経験及び福井でのまちづくり経験を持つ教員により、業務経験を活かした実践的な地域ビジョンのつくりかたを学ぶ。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	【授業計画・内容】に記載

教育史

(History of Education)

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分 教職 選択	授業方法 講義・演習	対象学年 1・2・3・4 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407			
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp			
授業概要	本授業は、教育や学校に関する思想史的理解を深めるため、主に近代以降の教育と学校の変遷について講義及びグループ・ディスカッションを行う。 具体的には、「近代教育の誕生」、「学校教育と新教育運動」、「近代教育批判」という3つの大きなテーマに分けて全15回の授業を行い、現代の学校教育が抱える諸課題を近代教育という大きな歴史的流れのなかに位置づけながら考察していく。			
到達目標	教育思想史の観点から教育の理念について理解を深めるとともに、教育及び学校の営みを客観的に捉える視点をもつことが本授業の目標である。具体的な到達目標は次の通りである。 1) 教育の歴史及び思想に関する基礎的概念について説明することができる。 2) 教育及び学校の変遷について説明することができる。 3) 代表的な教育思想家の考えに基づいて現代における教育課題を考えることができる。			
授業計画・内容				
第1回：切断／接続としての「近代」－教育と学校をめぐる大転換－ 第2回：近代教育の誕生①－コメニウスの『大教授学』と『世界図絵』－ 第3回：近代教育の誕生②－ロックの「ジェントルマン教育論」と「貧民教育論」－ 第4回：近代教育の誕生③－ルソーの「市民教育論」と『エミール』－ 第5回：グループ・ディスカッション①－近代教育の構造とは何か－ 第6回：学校教育と新教育運動①－ペスタロッチの「メトード」という発想－ 第7回：学校教育と新教育運動②－ヘルバルトとヘルバルト学派教育学－ 第8回：学校教育と新教育運動③－新教育運動の隆起とその背景－ 第9回：学校教育と新教育運動④－アメリカ及びヨーロッパにおける新教育運動の展開－ 第10回：グループ・ディスカッション②－学校教育の発展とその課題－ 第11回：近代教育批判①－近代教育への疑義－ 第12回：近代教育批判②－フーコーの権力分析と学校・病院・監獄－ 第13回：近代教育批判③－正統的周辺参加論と共同体による教育－ 第14回：近代教育批判④－ポストモダン思想と近代教育の(非)接合－ 第15回：グループ・ディスカッション③－現代的教育課題の思想的・歴史的起源－ ※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	「子ども」の誕生、re-presentation(再提示)、近代教育批判			
教科書	授業毎に資料を配付する。			
参考書	『教育思想史』 今井康雄編、有斐閣、2009 年。			
評価方法・評価基準	以下の評価基準に照らして、期末レポート(50%)、ミニレポート(30%)、グループ・ディスカッション(20%)により総合的に評価する。遠隔時も評価方法・基準に変更はありません。 1) 教育の歴史及び思想に関する基礎的概念について論理的に説明することができる。 2) 教育及び学校の変遷について歴史的に説明することができる。			

	3) 代表的な教育思想家の考えに基づいて現代における教育課題を客観的に説明することができる。
関連科目	教育原理、教育心理学、教育社会学、教育制度論、教育方法論、教師論
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前学修：事前に配布する資料を理解し、自分なりに授業のねらいを明確にする。 事後学修：各授業内容をふまえたポートフォリオを作成する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な場面を想定して講義をおこなう
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
その他	教育原理等で学んだ知識をふまえ、思想的観点からアクティブラーニングをベースに授業を展開します。

公民科教育法Ⅱ

(Methods of Civic Education Ⅱ)

担当教員名 佐藤 功				
科目区分	教職 必修	授業方法 講義・演習・実習	対象学年 1・2・3・4 年	開講期 後期集中 単位数 2
オフィスアワー	授業の前後に質問等を受けつける。			
メールアドレス	taikanokaisin@kd6. so-net. ne. jp			
授業概要	「18 歳」が主権者としての政治的判断力を持てるよう、社会科・公民科が単なる暗記事項でなく、社会にかかわることが「自分のこと」として考えられる——民主的社会を担う市民として自立するための授業づくりを、模擬授業と専門家インタビュー等をふんだんに行うなかで実践的に学ぶ。			
到達目標	中学校社会科および、高等学校の公民分野に関する目標と内容を理解できる。また、指導方法と授業設計について、模擬授業等を通して実践的技能を身につけられる。とりわけ、「望んだわけでもないのに勝手に 18 歳選挙権が与えられ、投票に行かなければまた『最近の若者は……』と非難されてすごく迷惑」(ある現役高校生の声)という考えに自分なりの答えを出せる、18 歳成人時代の公民科教育の担い手となれる。			
授業計画・内容				
授業計画 第 1 回：オリエンテーションおよび班分け、テーマ設定、アイスブレイク 第 2 回：学習指導要領における中学社会科・高校公民科の目標と内容/主権者教育とは何か 第 3 回：主権者教育の実際 /グループワークの創造 第 4 回：教材作成演習 18 歳を「大人にする」ための実践演習① 第 5 回：教材作成演習 18 歳を「大人にする」ための実践演習② 第 6 回：「主権者教育」授業をつくる/模擬授業① 第 7 回：「主権者教育」授業をつくる/模擬授業② 第 8 回：中学社会科・高校公民科における教材の特徴と情報機器の活用 第 9 回：学習指導案の作成/教材作成演習 中学社会科・高校公民科における生徒の実態 第 10 回：教材作成演習 情報機器を活用した探究的公民授業の創造① 第 11 回：教材作成演習 情報機器を活用した探究的公民授業の創造② 第 12 回：情報機器を活用した探究的公民授業をつくる/模擬授業③ 第 13 回：情報機器を活用した探究的公民授業をつくる/模擬授業④ 第 14 回：今後の公民科授業づくりにかかわる実践的研究の動向 第 15 回：まとめ ※遠隔授業時：ZOOM によるリアルタイムオンライン授業				
キーワード	主権者教育、模擬授業、模擬請願、模擬選挙、ICT、オンライン教材、学習指導要領			
教科書	必要な資料を、適宜配布する。			
参考書	参考書・参考資料等 文部科学省「中学校学習指導要領」「中学校学習指導要領解説」及び「高等学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領解説」(いずれも最新版)、国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(中学校社会、高等学校公民)。以上の資料は全てインターネット上で入手できる。このほか、適宜、参考となる書籍・資料等を紹介する。			
評価方法・評価基準	授業中およびグループ活動による評価 70%、レポート・提出物等による評価 30%。			

	※遠隔時：評価方法に変更はなし。
関連科目	公民科教育法 I
履修要件	公民科教育法 I の履修を終えていること。 教育実習の計画がある学生は、教育実習の前年度までに受講することが望ましい。
必要な事前・事後学修	第 1 回目授業にて提示。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 公立高校社会科（地歴・公民科）教員歴 3 3 年間
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
その他	2019 年度以降入学生は教職課程の必修科目

体育実技Ⅲ（スクーバダイビング）

(Physical TrainingⅢ : Scuba Diving)

担当教員名 石原 一成、彦坂 弘久				
科目区分 一般 選択	授業方法 実技	対象学年 1 年	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	火曜日 3～4 時限 体育館管理室			
メールアドレス	ishihara(at) fpu. ac. jp ※ (at) は@に置き換えて下さい			
授業概要	身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を実習を通じて育成する。			
到達目標	①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める ②健康的な生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る ④他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながるスキルの獲得を図る			
授業計画・内容				
1. オリエンテーション、アイス・ブレーキング、教材配布、リスクの確認、書類への記入、水中世界の楽しみ方 2. ダイビング器材とその使い方 3. 体の機能と水中環境、ダイビングの計画と実施 4. 水中の世界、ダイビング経験と継続教育 5. 学科試験 6. 限定水域・海洋実習オリエンテーション 7. 限定水域実習：授業計画 7～9 回分 マスククリア、スノーケル呼吸／クリア、フィンキック、ボビング法、サーフェスダイブ 器材のセッティング、レギュレータ呼吸、レギュレータ・クリア／リカバリー、マスククリア／脱着、 浮力コントロール、空気供給、空気供給しながらの浮上、緊急スイミング浮上、緊急浮力浮上、 水中・水面でのシリンダー脱着、水面でのウエイトベルト脱着 10. 海洋実習：授業計画 10～14 回分 マスククリア、スノーケル呼吸／クリア、フィンキック、ボビング法、サーフェスダイブ 器材のセッティング、レギュレータ呼吸、レギュレータ・クリア／リカバリー、マスククリア／脱着、 浮力コントロール、空気供給、空気供給しながらの浮上、緊急スイミング浮上、緊急浮力浮上、 水中・水面でのシリンダー脱着、水面でのウエイトベルト脱着 15. まとめ、テスト、レポート 授業の特性により、遠隔授業に切り替えての実施ができない科目のため、対面授業が実施できない場合は、「不開講」となる。 【その他】 前期の土曜日・日曜日の 3 日間を利用して実施予定（1 日：学内実習、2 日：学外実習（南越前ダイビングパーク））。別途実習費（30,000 円程度）や交通費が必要となる。学科・実技ともに基準を満たしたものは、ダイビ				

ング指導団体 SSI が認定するオープンウォーターダイバーC カードを取得することができる。

キーワード	身体活動、生涯スポーツ、自己管理、コミュニケーション、就業力
教科書	MySSI アプリ（デジタル教材、デジタルログブック：実習費に含む）
参考書	必要・希望に応じて紹介する。
評価方法・評価基準	①授業に対する積極的な参加態度(受講者との協力・状況判断とその対応・コミュニケーション能力) (60%)、②集団技能(ゲームの結果や内容をチーム毎に評価する) (20%)、③基礎理論・説明の理解度 (20%)により総合的に評価する。なお、実技科目である特性上、4 回以上欠席した場合、単位の修得は非常に困難になる。
関連科目	体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、スポーツ科学、運動処方論
履修要件	オリエンテーションを含めた学内で行う授業に出席しない学生の参加は認めない。また、授業内容の充実と安全性を考え、受講人数を制限することがある。
必要な事前・事後学修	講義中に適宜指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり スクーバダイビング指導団体の最高峰資格を持ち、ダイビングショップを経営する教員（彦坂）が、スクーバダイビングの学科および実技指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
その他	【授業計画・内容】に記載

教師論

(Indispensable Properties of Teachers)

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分	教職 必修	授業方法	講義	対象学年 1・2・3 年
開講期	前期	単位数	2	
オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407			
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp			
授業概要	社会の変化とともに教職の重要性はますます高まりつつある。そこで本授業では、教職の意義や教師の役割・職務内容等について幅広く理解し、教職への意欲を高めるとともにその基礎的な資質能力を身につけられるよう、現在の教師や学校を取り巻く複雑な状況を講義及びグループディスカッションを通じて解きほぐしていく。			
到達目標	本授業は現代における教職の意義及び教員の役割・職務内容等について理解することをその目標とする。 1)今日の学校教育や教職の社会的意義について説明することができる。 2)学校教育を取りまく環境の変化をふまえ、教員に求められている役割や資質・能力について説明することができる。 3)教員の職務内容について理解し、その職責について説明することができる。 4)チーム学校運営の重要性を理解し、その連携のあり方について説明することができる。			
授業計画・内容				
第1回：イントロダクションー「教師になる」とはどういうことかー				
第2回：近代公教育と教師の社会的意義ー学校教育の成立とその変遷を通してー				
第3回：「教師」という職業ー子どもを支える多様な職業のなかでー				
第4回：教職観の変遷ー「金八先生」から「GT0」へと至る教職イメージの変遷ー				
第5回：現代における教員の役割ー2つの「GT0」から考えるー				
第6回：学校を取りまく環境の変化と今日の教員に求められる資質・能力				
第7回：グループディスカッション①ー教職の意義と教員の役割をめぐってー				
第8回：教師の「多忙」な生活ー多様な職務内容とその遂行ー				
第9回：学校という組織のあり方ー「校務分掌」と「主幹教諭」・「指導教諭」ー				
第10回：教師に「できること」と「できないこと」ー学校現場の実情を通してー				
第11回：教員の資質能力向上を支えるシステムー「学び続ける」教員とその職能成長ー				
第12回：「全体の奉仕者」としての教師ー「身分上の義務」と「職務上の義務」をめぐってー				
第13回：学校内外の多様な専門性を活かすこれからの学校教育ー「学級王国」から「連携・協働」へー				
第14回：グループディスカッション②ー「チーム学校」における教師の意義と職務・役割ー				
第15回：まとめー「教師である」ことのアポリアー				
※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	教職の意義、教員の役割、教員の職務内容、チーム学校			
教科書	適宜、授業プリントを配布する			
参考書	『学習指導要領』文部科学省、『学習指導要領解説 総則編』文部科学省 (教科の教員免許取得を希望する学生は高等学校、養護教諭免許取得希望者は小学校のものを参照すること)			
評価方法・評価基準	評価方法：学習ポートフォリオ(40%)、期末レポート(60%) 評価基準：授業目標に掲げた4観点について総合的に評価を行う。 ※遠隔時も評価方法・評価基準に変更はありません			

関連科目	教育原理、教育制度論、教育社会学、教育史
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前学修：事前に配布する資料を理解し、自分なりに授業のねらいを明確にする。 事後学修：各授業内容をふまえたポートフォリオを作成する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な場面を想定して講義をおこなう
施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
その他	教育原理等で学んだ知識をふまえ、学校現場の観点からアクティブラーニングをベースに授業を展開します。

商業科教育法 I

(Methods of Commercial Education I)

担当教員名 北本 泰則				
科目区分	教職 必修	授業方法	講義・演習	対象学年 1・2・3 年
開講期		前期集中		単位数 2
オフィスアワー	授業の前後及びメール・Z o o m等にて対応する			
メールアドレス	kita1107@ktv.ne.jp			
授業概要	(1) 商業教育を取り巻く課題及び必要性等について講義する。 (2) 高等学校学習指導要領商業編の解説と商業教育について講義する。 (3) 商業科の目標および商業各科目の目標・指導内容について講義する。 (4) 商業科目の教材研究と指導方法を講義する。			
到達目標	(1) 高等学校学習指導要領の内容を理解できる。 (2) 各分野の商業科目の目標・指導内容を理解できる。 (3) 教材研究と指導研修を通して、教科の知識・実践的な指導力を身に付ける。			
授業計画・内容				
※遠隔授業となった場合は、Z o o mによる授業とする				
第1回：授業ガイダンス、商業教育の現状と課題				
第2回：商業教育の意義と必要性				
第3回：商業教育の変遷				
第4回：商業教育におけるキャリア教育				
第5回：商業教育と学習指導要領①				
第6回：商業教育と学習指導要領②				
第7回：学習指導「共通科目分野」				
第8回：学習指導「マーケティング分野」				
第9回：学習指導「マネジメント分野」				
第10回：学習指導「会計分野」				
第11回：学習指導「ビジネス情報分野」				
第12回：学習評価について				
第13回：指導形態と指導方法①				
第14回：指導形態と指導方法②				
第15回：資格取得と進路指導及び商業科教師としての資質と態度				
キーワード	学習指導要領、学習指導方法、教材研究、資格取得、教員免許状取得			
教科書	商業科教育法 -理論と実践- 西村修一 監修 笠木秀樹 編著 発行 東京法令出版株式会社			
参考書	「高等学校学習指導要領解説商業編」文科省発行実教出版株式会社			
評価方法・評価基準	・ 期末試験レポート（50％）と課題及び5分間スピーチなど（50％）で総合評価する。 ・ 遠隔授業の場合も評価方法は同様とする。			
関連科目	経済・経営などの商業科目との連絡を密にする。			
履修要件	なし			
必要な事前・事後学習	事前・事後学習については教員がメールまたは講義時に指示する。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり			

	商業の専門高校で 30 年余り、商業科教員としての実務経験。 管理職（校長）として、教員への指導経験。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
その他	授業でプリント及び関連資料を配布する。

水産科教育法Ⅰ

(Method of Fisheries EducationⅠ)

担当教員名 小坂 康之				
科目区分	教職 必修	授業方法 講義・実習・実技	対象学年 1・2・3 年 (小浜)	開講期 前期集中 単位数 2
オフィスアワー	若狭高校勤務のため、来校すればいつでも対応します。			
メールアドレス	y-kosaka-cc@ma.fukui-ed			
授業概要	皆さんは、海にあこがれ、海の研究や学びを通じて成長している実感があると思います。水産科教員は、同様に海を通じて子供たちを育成できる魅力ある仕事であります。本授業では、地域の実情に合わせながら地域活性化や研究活動など幅広く活躍することができる水産、海洋系高校の魅力的な教育を学びます。教科指導上必要な技術や理論についても学び、資格（小型船舶、潜水士、ダイビングなど）について必要であれば指導も行います。現場で行われている最新の教育内容、研究について講義や実地見学を通じて学びます。			
到達目標	日本および世界の水産海洋教育を支える教員の育成を目的とします。テーマは、「水産海洋教育の魅力に迫る」。水産科教員希望者はもちろんのこと水族館や学芸員を目指す生徒にも重要となる教育理論や実践を学ぶことができます。			
授業計画・内容				
第1回：水産・海洋系高等学校の教育の魅力（国内・海外） 第2回：水産・海洋系高等学校の可能性・教員になるには 第3回：新学習指導要領について 第4回：新学習指導要領と水産海洋教育の可能性 第5回：最新の教育内容（目標に準拠した評価方法） 第6回：最新の教育内容（主体性自主性を育てる教育） 第7回：最新の教育内容（水産海洋教育の世界の現場から） 第8回：「先進地見学」若狭高等学校 見学（教員との協議） 第9回：「先進地見学」若狭高等学校 見学（生徒との協議） 第10回：海外の海洋教育現場と議論する（教員と協議・zoomを使用） 第11回：海外の海洋教育現場と議論する（生徒と協議・zoomを使用） 第12回：授業づくりとは 模擬研究授業 第13回：授業づくりとは 模擬研究授業 第14回：授業づくりとは 模擬研究授業 第15回：授業づくりとは 模擬研究授業 * 遠隔授業となった場合は、zoomを使用して実施する。				
キーワード	水産教員 授業づくり 海洋教育			
教科書	学校を改革する（岩波ブックレット） 佐藤学 さばの缶づめ、宇宙へいく（イーストプレス）小坂康之・林公代 「高等学校学習指導要領 解説 水産編」 文部科学省 HP よりダウンロード印刷してくること			
参考書	授業中に適宜提示する			
評価方法・評価基準	レポート（50%）、授業中に行う授業づくりの計画書（50%） * 遠隔授業となった場合は、メールで提出、提出物を評価する。			
関連科目	水産科教育法Ⅱ			

履修要件	実技を伴うため出席をすること
必要な事前・事後学修	教科書・学習指導要領を読んでくること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 福井県立若狭高等学校現職水産教員
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。

商業科教育法Ⅱ

(Methods of Commercial EducationⅡ)

担当教員名 北本 泰則				
科目区分 教職 必修	授業方法 講義・演習	対象学年 1・2・3・4 年	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	授業の前後及びメール・Zoom 等にて対応する			
メールアドレス	kita1107@ktv.ne.jp			
授業概要	(1) 授業の指導形態と指導法など授業運営について講義する。 (2) 学習指導案作成や模擬授業を行うことにより実践的な指導力と専門性を身に付ける。 (3) 商業高校におけるキャリア教育について講義する。 (4) これからの商業科教員に必要とされる資質や姿勢などを講義する。			
到達目標	(1) 授業の指導形態と学習指導方法を修得できる。 (2) 指導計画及び学習指導案の作成を通して、授業設計ができる。 (3) 模擬授業を通して、教員に必要な知識と技能が修得できる。 (4) 商業科教員としての資質・態度等を身に付く。			
授業計画・内容				
※遠隔授業となった場合は、Zoom による授業とする				
第 1 回：授業ガイダンス、指導形態と指導方法①（話し方・板書計画）				
第 2 回：指導計画と学習指導（進度設計・授業設計など）				
第 3 回：学習指導案の作成方法①（作成の基本）				
第 4 回：学習指導案の作成方法②（模擬授業の指導案作成）				
第 5 回：授業づくり①（教材研究の取り組み）				
第 6 回：授業づくり②（教材研究の活用）				
第 7 回：模擬授業と事後指導①「ビジネス基礎」				
第 8 回：模擬授業と事後指導②「ビジネス基礎」				
第 9 回：学習指導案の作成方法③（模擬授業の指導案作成）				
第 10 回：模擬授業と事後指導④「簿記会計」				
第 11 回：模擬授業と事後指導⑤「簿記会計」				
第 12 回：商業科目全般の教材研究方法				
第 13 回：模擬研究授業				
第 14 回：未来につながる商業教育				
第 15 回：商業科教師への期待				
キーワード	学習指導方法 模擬授業 教材研究 学習評価 教員免許状取得			
教科書	商業科教育法 -理論と実践- 西村修一 監修 笠木秀樹 編著 発行 東京法令出版株式会社			
参考書	「高等学校学習指導要領解説商業編」文科省発行実教出版株式会社			
評価方法・評価基準	・ 期末試験レポート（４０％）と模擬授業及び課題提出物など（６０％）で総合評価する。 ・ 遠隔授業の場合も評価方法は同様とする。			
関連科目	商業科教育法Ⅰ、教職課程における教職に関する科目群			
履修要件	「商業科教育法Ⅰ」を履修済み、あるいは履修予定であること			

必要な事前・事後学修	事前・事後学習については教員がメールまたは講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 商業の専門高校で 30 年余り、商業科教員としての実務経験。 管理職（校長）として、教員への指導経験。
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)
その他	授業でプリント及び関連資料を配布する。

水産科教育法Ⅱ

(Method of Fisheries EducationⅡ)

担当教員名 小坂 康之				
科目区分	教職 必修	授業方法 講義・演習・実技	対象学年 1・2・3・4年(小浜)	開講期 後期集中 単位数 2
オフィスアワー	若狭高校勤務のため、来校すればいつでも対応します。			
メールアドレス	y-kosaka-cc@ma.fukui-ed			
授業概要	高校水産海洋教育の現状をふまえた上で、今後の水産教育および水産・海洋系高校の問題点や今後の在り方について考え、日本および世界のこれからの水産海洋教育についてのビジョンを自分の言葉で熱く語ることができるような知識を身につける。			
到達目標	魅力ある水産海洋教育の指導者を育成すること。水産科教員希望者はもちろんのこと水族館や学芸員を目指す生徒にも重要となる教育理論や実践を学ぶ。			
授業計画・内容				
第1回：水産海洋教育の意義と役割 第2回：授業づくりの理論（自らの学びを振り返る） 第3回：授業づくりの理論（自らの学びを語る） 第4回：授業づくりの理論（自らの学びを聞く） 第5回：授業づくりの理論（自らの学びを省察する） 第6回：授業づくりの実践「学習指導案の見方」 第7回：授業づくりの実践「学習指導案の作り方」 第8回：授業づくりの実践「学習指導案の作成」 第9回：授業づくりの実践「学習指導案の評価」 第10回：授業づくりの実践「模擬授業の実施」 第11回：授業づくりの実践「模擬授業の見学」 第12回：授業づくりの実践「模擬授業の内容を振り返る」 第13回：授業づくりの理論「水産食品分野の実践事例を知る」 第14回：授業づくりの理論「海洋生物分野の実践事例を知る」 第15回：授業づくりの理論「海洋技術分野の実践事例を知る」 * 遠隔授業となった場合は、zoom を使用して実施する。				
キーワード	水産教員 授業づくり 海洋教育			
教科書	「高等学校学習指導要領解説水産編」文部科学省 HP よりダウンロード印刷してくること			
参考書	授業中に適宜提示する			
評価方法・評価基準	レポート（50%）、授業中に行う授業づくりの計画書（50%） * 遠隔授業となった場合は、メールで提出、提出物を評価する。			
関連科目	水産科教育法Ⅰ			
履修要件	実技を伴うため出席をすること			
必要な事前・事後学修	特になし			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 福井県立若狭高等学校現役水産教員			

施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。

教育社会学

(Educational Sociology)

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分 教職 選択	授業方法 講義・演習	対象学年 1・2・3・4 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407			
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp			
授業概要	本授業は、現代の学校教育における諸課題について社会的側面から考察を行うことによってその客観的理解を図るとともに、その具体的対応方法について実践例をもとに考察を行う。また、学校と地域との連携に関する事例や防災教育に関する事例を考察することを通して、それらの意義や重要性について理解を深める。			
到達目標	1) 学校教育に対して社会の変化が及ぼす影響とそこから生じる課題について説明することができる。 2) 学校教育の課題に対応するための近年の教育政策について説明することができる。 3) 学校と地域が連携・協働する意義と方法について具体的に説明することができる。 4) 学校安全の目的とその取り組みについて具体的に説明することができる。			
授業計画・内容				
第1回：イントロダクションー社会構造における子どもと教育ー				
第2回：学校をとりまく社会環境の変化ー不確実性の時代と教育・社会ー				
第3回：子どもとメディアー教育コミュニケーションの可能性と不可能性ー				
第4回：日本におけるいじめ論の特徴ーきめ細かな対応と心のケアー				
第5回：北欧におけるいじめ論の特徴ー社会防衛という視点からのいじめ予防ー				
第6回：不登校と学校ー「学校に行かない」という選択ー				
第7回：教育と貧困ー貧困の連鎖とその問題ー				
第8回：全国学力学習状況調査と教育のアカウンタビリティ				
第9回：PIA 調査と教育のグローバル化				
第10回：開かれた学校づくり①ー地域と連携する学校教育の可能性ー				
第11回：開かれた学校づくり②ー事例を通して考える意義と課題ー				
第12回：学校事故と学校安全①ー学校事故とその対応ー				
第13回：学校事故と学校安全②ー学校におけるリスク対応ー				
第14回：防災教育とその実践ー阪神淡路大震災の記憶と記録ー				
第15回：まとめ				
※遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	子どもと教育メディア、いじめ、不登校、学力問題、開かれた学校づくり、学校事故			
教科書	授業中に資料を配付する。			
参考書	『よくわかる教育社会学』酒井朗・多賀太・中村高康編、ミネルヴァ書房、2012 年			
評価方法・評価基準	以下の評価基準に関して、期末レポート(60%)、ミニレポート(40%)により総合的に評価する。遠隔授業路も評価方法に変更はない。 1) 学校教育に対して社会の変化が及ぼす影響とそこから生じる課題について説明することができる。 2) 学校教育の課題に対応するための近年の教育政策について説明することができる。 3) 学校と地域が連携・協働する意義と方法について具体的に説明することができる。			

	4) 学校安全の目的とその取り組みについて具体的に説明することができる。
関連科目	教育原理、教育心理学、教師論、教育制度論
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前学習：事前に配布する資料を理解し、自分なりに授業のねらいを明確にする。 事後学習：各授業内容をふまえたポートフォリオを作成する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、具体的な学校場面を想定して講義をおこなう
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)
その他	教育原理等で学んだ知識をふまえ、社会学的観点からアクティブラーニングをベースに授業を展開します。

東アジアの文化と社会

(Culture and Society of East Asia)

担当教員名 加藤 錦霞				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	授業前後に対応する			
メールアドレス	教室でお知らせする			
授業概要	東アジア文化と社会は東アジアの人々の生活、毎日使うお箸、飲んでいるお茶、東アジア各国は互いにどのような関わりであるのか、東アジアの概要、中国、日本と韓国の世界遺産、文化及び中国近代史など学習を行います。			
到達目標	この授業を通して、中国と韓国と日本の文化と社会を幅広く学習するとともに、東アジア地域内の多方面について相互理解し、東アジアの多様な文化共通のところとそれぞれの個性を知り、国際発信及び国際交流に役に立つことを目標とします。			
授業計画・内容				
授業の予定 第1回 東アジアの概要 第2回 中国の近代史 第3～4回 中国近代史に名を残す宋家三姉妹 第5～8回 中国の世界遺産（故宮博物館、九寨溝など） 第9回 日本の世界遺産 第10回 韓国の世界遺産(宗廟、昌徳宮、チェジュの火山島と溶岩洞窟群など) 第11回 日本、韓国、中国のお茶文化(お茶の歴史および種類、お茶の楽しむ方法、試飲) 第12～13回 中国北方の小麦文化(餃子・焼き餅・麺のいろいろ) 第14回 韓国の食文化、日本の食文化、中国の食文化 第15回 中国、日本、韓国の民族衣装(着物、チャナドレス、韓国のチマチョゴリ) この授業では文化体験も予定していますので、楽しみにして下さい。 遠隔授業になった場合のツール：Zoom と GC です。				
キーワード	中国、中国人生活、教育、文化、風習、日本、韓国			
教科書	プリント配布			
参考書				
評価方法・評価基準	学習態度及びレポート提出によって評価する 遠隔授業となった場合も同じです。			
関連科目				
履修要件	東アジアに興味がある			
必要な事前・事後学修	特にありません			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国の大学での教員経験に基づき、中国の大学生活を講述する。			
施行規則に定める科目区分又は事項等				
その他	授業内容は変更する場合がある。			

海と暮らし

(Topics of Marine Life)

担当教員名 海洋生物資源学科の教員(オムニバス)					
科目区分	一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー					
メールアドレス					
授業概要	海洋生物資源、それらを取りまく環境、水産資源の管理、水産資源生物の増養殖、水産資源の利用および貯蔵、水産流通経済に関する広範な内容について福井県の現状なども踏まえながら様々なトピックスを紹介する。				
到達目標	海にどのような生物が生息し、それを利用して生きる人々の暮らしにどのような影響を与えているかについて、多様な知識と幅広い見識を修得し考える。				
授業計画・内容					
1. 海の生業・水産業（渡慶次） 2. 海の湧き水（杉本） 3. 海洋細菌の働き（近藤） 4. 水産物のブランド化（東村） 5. 福井の魚（水田） 6. 川と海を行き来する魚たち（田原） 7. 藻類の多様性（佐藤晋） 8. 海の予報（兼田） 9. 海の変化と生物資源（瀬戸） 10. 水産養殖と養魚飼料（佐藤秀） 11. 魚介類の育種（奥澤） 12. 海藻養殖（吉川） 13. 魚介類のおいしさ（横山） 14. 疾患研究モデルとしての魚類（末武） 15. 水産食品の安全性（松川） 遠隔授業の場合：Zoom によるオンライン授業と GC による期末試験を行う					
キーワード	海洋環境、海洋生物、海洋資源、水産食品、味、安全、加工				
教科書	担当教員の指示による。				
参考書	「若狭のおさかな」(青海編著) 晃洋書房、「水産海洋ハンドブック」(竹内ら著) 生物研究社など				
評価方法・評価基準	期末試験で評価し、満点の 60%以上を合格とする。 海洋生物資源と人の暮らしとの関わりについての基本的理解が評価の基準になる。				
関連科目	海洋生物資源学部開講の科目など				
履修要件	特になし。				
必要な事前・事後学修	事前・事後学修は必要時には適宜指示します。指示があるとき以外は、前回の学習内容を確認しておいてください。				
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 公設研究機関や民間食品企業で働いた経験のある教員の講義を含む。				

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

恐竜学

(Dinosaurology)

担当教員名 柴田 正輝、西 弘嗣、河部 壮一郎、今井 拓哉、服部 創紀					
科目区分 一般 選択		授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	事前にメール等で連絡をしてください。				
メールアドレス	【授業計画・内容】に記載				
授業概要	私達の身近にあるメディアなどで登場する恐竜から、恐竜を知り、古生物学の基礎知識や恐竜類全般に関わる地質時代のイベントを学習する。				
到達目標	① 恐竜がどのような“生物”であるのかを知る。 ② 多様な恐竜の分類やその関係を理解する。 ③ 恐竜研究に関わる岩石や地質学的イベントなどの古生物学の基礎知識を学習する。 ④ メディアで登場する恐竜の真の姿を知り、最新の学術的知識を身につける。				
授業計画・内容					
【メールアドレス】 いずれも末尾に@fpu.ac.jp. をつけること。 sdino/ hnishi / kawabe / t_imai / s-hattori 【授業計画・内容】 第1回 インTRODクシヨン (柴田) 第2回 恐竜を勉強するために(分類方法を知る)(柴田) 第3回 恐竜の発掘 (柴田) 第4回 恐竜の分類 (西) 第5回 特撮と恐竜 (西) 第6回 角や鎧を持つ恐竜 (西) 第7回 カモノハシ恐竜 (服部) 第8回 群れで狩りをする恐竜 (服部) 第9回 ティラノサウルス (服部) 第10回 巨大恐竜 (今井) 第11回 恐竜ではない竜たち (今井) 第12回 恐竜映画にみる恐竜研究の進展 (今井) 第13回 恐竜を復元することはできるのか? (河部) 第14回 福井の恐竜 (河部) 第15回 絶滅 (河部) ※講義内容は状況により入れ替わる場合もある。 ※対面授業でも Zoom や GC を利用することがある。 ※遠隔授業となった場合、Zoom と Google Classroom を利用して講義を行う。 また、評価方法・評価基準も変更になる可能性がある。					
キーワード	恐竜、映画、多様性、絶滅、進化				
教科書	特に無し				

参考書	福井恐竜学/福井県立大学恐竜学研究所編/2021 恐竜学入門/東京化学同人（2015/1/31）
評価方法・評価基準	各講義後の小テストと期末試験の合計を 100 点満点で評価
関連科目	無し。
履修要件	無し
必要な事前・事後学修	講義時に教員が指示します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 全教員、恐竜博物館の研究職員を併任。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	プリントは随時配布。関連科目は、基礎知識として有用ですが、本講義でも補足します。

地域社会とフィールドワークD(古脊椎動物学実習)

(英字は【授業計画・内容】に記載)

担当教員名 柴田 正輝、西 弘嗣、河部 壮一郎、今井 拓哉、服部 創紀				
科目区分 一般 選択	授業方法 実習	対象学年 1年	開講期 前期集中	単位数 2
オフィスアワー	事前にメール等で連絡をしてください。			
メールアドレス	【授業計画・内容】に記載			
授業概要	恐竜は一体どのようにして研究に至るのだろうか？恐竜を知っていてもその過程を経験することはなかなかできない。本実習では、恐竜博物館やその展示標本を利用し、福井県でしかできない、発掘からプレパレーションまでを体験する。			
到達目標	① 福井県の恐竜化石が発見される理由を理解する。 ② 化石の発見から研究までを体験し、古生物学研究の現場を知る。 ③ 恐竜博物館の展示標本を観察し、恐竜の特徴を理解する。 ④ 恐竜博物館の常設展示の展示内容とその方法を学習する。			
授業計画・内容				
【講義名(英字)】 Regional Fieldwork D (Vertebrate paleontology Lab. Technique) 【メールアドレス】 いずれも末尾に@fpu.ac.jp.をつけること。 sdino/kawabe/t_imai/s-hattori 【授業計画・内容】 受講者を2つのグループに分けて、実習を行います。全て、恐竜博物館および発掘現場で行い、屋内外の実習では汚れや暑さ対策などの必要なので教員の指示に従ってください。事前の説明会は休憩時間を利用して行います。日程が決まったらメールで連絡しますので、受講が決まったらGoogle classroomへの登録をしてください。 第1回 イントロダクション (柴田) 第2回 展示室実習1：常設展について (河部) 第3回 展示室実習2：展示案内 (今井・服部) 第4回 展示室実習6：課題の解答と解説 (河部) 第5回 古生物学実習1：発掘現場の地質 (今井) 第6回 古生物学実習1：発掘と化石の判別 (今井) 第7回 古生物学実習2：地層の学習 (服部) 第8回 古生物学実習2：野外恐竜博物館 (服部) 第9回 古生物学実習2：地層のスケッチ (服部) 第10回 古生物学実習3：化石クリーニングの基礎 河部 第11回 古生物学実習3：恐竜骨格スケッチ 柴田・河部 第12回 古生物学実習4：複製制作について 柴田 第13回 古生物学実習4：型取りと成形 外部講師・柴田 第14回 古生物学実習4：彩色 外部講師・柴田 第15回 まとめ 柴田				

- * 実習なので遠隔授業となった場合、中止にすることもあります。
- * 発掘現場の状況や天候などにより実習内容が変更となることもあります。

キーワード	古生物、堆積、古環境、地層、恐竜、発掘
教科書	特になし
参考書	福井恐竜学/福井県立大学恐竜学研究所編/2021
評価方法・評価基準	各回における提出物や課題（１００％）で評価。
関連科目	地学概論、恐竜学、地球生命史学
履修要件	無し
必要な事前・事後学修	講義時に教員が指示します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 教員は恐竜博物館の研究職員を併任。プレパレーションでは、博物館プレパレーションスタッフ、複製制作は、民間会社で経験してきた職人による指導。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	遅刻、欠席は基本的に認められないので注意すること。

地域特講 A (匠と現代)

(Special lecture about Regional Study A)

担当教員名 松本 涼、増田 頼保				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	水曜 12:10-13:00			
メールアドレス	matumoto@fpu.ac.jp			
授業概要	今日、手作りの世界が見直されている。その中に自然との共存を旨として生きてきた伝統的な工芸の匠と共に、一方で最先端の技術を取り入れ、新しくデザイン性の高い世界を模索する匠たちがいる。本講義は世界に誇る福井の伝統工芸(和紙、漆芸、打ち刃物など)の歴史と展開、可能性を現場の匠たちも交えたオムニバス形式で実施。			
到達目標	福井の文化＜伝統工芸＞。その核心とも言える＜デザイン性と芸術性＞を、世界に発信されうるものとして、国際的な比較や、学際的に様々な視点から学ぶ。マニュアル化された職人の世界に面白さと可能性を学び、生きることを意味を匠の先生方との闊達な対話を通して学ぶ。 1. 伝統工芸を知る 2. デザイン化された工芸を知る 3. 芸術化された工芸を知る 4. 世界に開かれた工芸を知る 5. 伝統ある福井の伝統工芸の未来を考える			
授業計画・内容				
世界から高い評価を受ける伝統工芸を未来につなぐ ①4/10「イントロダクション・匠と現代の概念」増田頼保（県大非常勤講師）、松本涼（学教センター准教授） ②4/17「匠の建築的視点」西岡常一氏【ビデオ】（大工棟梁） ③4/24「匠の技術的視点」成実嘉宣氏（成実漆工房・越前塗漆器職人） ④5/1 「匠のデザインの視点」土田直東氏（株土直漆器代表取締役社長・越前塗漆器職人） ⑤5/8 「越前和紙フードペーパーの広がり可能性」五十嵐匡美氏（株式会社五十嵐製紙・伝統工芸士） ⑥5/15「匠の販路開拓的視点」河野通郎氏（武生特殊鋼材株社長） ⑦5/22「越前和紙の世界性」教科書「神と紙の里の未来学―世界性・伝統工芸・創造知の集積」から第2章の解説とワークショップ」杉村和彦（福井県立大学名誉教授）・増田頼保（同上） ⑧6/5 「ヨーロッパの匠論」増田頼保（県大非常勤講師） ⑨6/12「タイの匠論」中村真理絵氏（国立民族学博物館・外来研究員） ⑩6/19「アフリカの匠論」杉村和彦（同上） ⑪6/26「アメリカの匠論ニコラス・クラディス氏のビデオを中心に」増田頼保（同上） ⑫7/3 「芸術家職人」長田和也氏（株）長田製紙所代表取締役）、増田頼保（同上） ⑬7/10「越前和紙の歴史的変遷」杉原吉直氏（有杉原商店代表取締役社長）、増田頼保（同上） ⑭7/17「地域のシンクタンクを念頭に意見交換1」増田頼保（同上）、杉村和彦（同上） ⑮7/24「地域のシンクタンクを念頭に意見交換2」松本涼（同上）、増田頼保（同上）、杉村和彦（同上） 昨年の受講生たちが提案してくれた和紙を生活の中に取り入れるアイデアは、和紙のタペストリーやイヤリング、和紙の包装……どれも素晴らしいものでした。県大生が提案しアイデアをもとに地元の職人さんたちと話し合い、小さな製品を作り、県大グッズを売店に並べたいなと夢見ています。 遠隔授業となった場合の対応：Zoomによるオンライン授業、GCによるオンデマンド授業等				

キーワード	匠論、現代性、世界性、地域文化、仕事の概念、デザイン性、芸術、創造知
教科書	杉村和彦、山崎茂雄、増田頼保編著「神と紙の里の未来学－世界性・伝統工芸・創造知の集積」出版社：晃洋書房
参考書	杉村和彦編「21 世紀の田舎学－遊ぶことと作ること」出版社：世界思想社
評価方法・評価基準	毎回、小レポートを提出して評価(50%)、最終持ち込み可記述テスト評価(50%) 対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	環境論・福井の文化と社会
履修要件	特になし。学外での参加自由の「創作和紙漉きを体験するワークショップ」を実施するので参加することが望ましい。(プラス採点対象)
必要な事前・事後学習	教科書を読込む。準備学習：準備学習については教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 実務経験のある教員による授業である。 地域の匠が、複数講義にスピーカーとして来られ、話と実演をされる。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	なし

生物科学

(General Bioscience)

担当教員名 今井 拓哉、服部 創紀				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	Google Classroom, または研究室(今井：恐竜研 202, 服部：地経研 202)にて随時受け付けます.			
メールアドレス	t_imai@fpu.ac.jp, s-hattori@fpu.ac.jp			
授業概要	鳥類とその祖先を主な題材とし、生物の分類や進化、適応放散、絶滅の過程を学ぶ。また、これらのイベントの要因やその背景についても解説し、生物科学領域、特に古生物学の魅力とその研究の取り組みなどを取り上げる。			
到達目標	生物進化の探求はどのように進められ、どこまで解明されてきたかを、鳥類の研究を例にして紹介し、その科学的取り組みの見識を深める。特定分類群の知識を深めるのが目的ではなく、多彩な学術分野によって生物群への理解がどのように深められているかを学ぶ。			
授業計画・内容				
1. 鳥類の形態 2. 系統分類学 3. 発生学 4. 集団生物学 5. 進化学 6. 地球史 7. 獣脚類の進化史① 8. 獣脚類の進化史② 9. 初期鳥類の進化史① 10. 初期鳥類の進化史② 11. 古顎類の進化史 12. 新顎類の進化史 13. 古生物の研究例① 14. 古生物の研究例② 15. 福井の古生物研究から分かること 概ね上記の流れとするが、理解を促進するためにその順序を入れ替える可能性もある。				
キーワード	鳥類, 進化, 絶滅, 適応放散, 多様性, 化石, 古生物学			
教科書	特に購入する必要はないが, 下記参考図書を基に講義を進める。			
参考書	「Handbook of Bird Biology」, I. Lovette & J. Fitzpatrick 編 Wiley-Blackwell 出版 「Avian Evolution」, G. Mayr 著, Wiley-Blackwell 出版			
評価方法・評価基準	講義中の小テストもしくはレポートにて評価する。			
関連科目	「恐竜学」「地球生命史学」「地学概論」			
履修要件	特になし			
必要な事前・事後学修	各講義で配布される講義資料の見直し・まとめ			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり			

	自然史系博物館での実務経験がある教員が、博物館における化石研究例を解説する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	小テスト、レポートを課す講義回は事前に通知しないので注意すること。5 回以上欠席の場合は成績評価の対象外とする。

教養特講B（地球生命史学）

(Special Lecture for Culture B (History of Life))

担当教員名 柴田 正輝、西 弘嗣、河部 壮一郎				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	事前にメール等で連絡をしてください。			
メールアドレス	いずれも末尾に@fpu.ac.jp.をつけること。sdino/ hnishi / kawabe			
授業概要	約46億年前の地球誕生以降、様々な環境で多様な生命が生み出されてきた。中でも脊椎動物の進化は、多くの研究者の興味の対象となっている。本講義では、生命の進化を促した「絶滅イベント」に注目し、脊椎動物を中心とした生命の歴史を振り返る。			
到達目標	①地球生命の誕生初期について理解する。 ②絶滅と生物多様性について知る。 ③地球環境の変化と生物進化について理解する。 ④脊椎動物の進化の流れを知る。			
授業計画・内容				
講義は以下の項目に沿って、3名の恐竜学研究所教員のオムニバス形式で行う。 講義内容や順序は変更になることもある。 第1回 地球生命史を学ぶために (柴田) 第2回 岩石・地層・化石・年代 (西) 第3回 生命の誕生 (西) 第4回 古生代の大量絶滅：オルドビス紀末（魚類）（河部） 第5回 微化石と環境変化 (西) 第6回 古生代の大量絶滅：オルドビス紀末以降（植物の上陸）（河部） 第7回 古生代の大量絶滅：四肢動物の登場 (西) 第8回 古生代の大量絶滅：デボン紀末 (河部) 第9回 古生代の大量絶滅：ペルム紀—三畳紀 (河部) 第10回 古生代の大量絶滅：羊膜類の登場 (河部) 第11回 中生代の大量絶滅：三畳紀 (柴田) 第12回 中生代の大量絶滅：三畳紀末 (柴田) 第13回 中生代の大量絶滅：ジュラ紀—白亜紀 (柴田) 第14回 中生代の大量絶滅：白亜紀末 (柴田) 第15回 軟体動物の白亜紀末 (西) ※遠隔授業となった場合、ZoomとGoogle Classroomを利用して講義を行う。また、評価方法・評価基準も変更になる可能性がある。				
キーワード	地球、生命史、脊椎動物、絶滅イベント			
教科書	特に無し			
参考書	脊椎動物の進化 第4版 築地書館 地球・生命の大進化（大人のための図鑑）/新星出版社（2012/8/3） など			
評価方法・評価基準	各講義後の小テストと期末テストの合計を100点満点に換算し評価する。			

関連科目	地学概論、生物科学、恐竜学
履修要件	無し
必要な事前・事後学修	講義時に教員が指示します。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 全教員、恐竜博物館の研究職員を併任。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	プリントは随時配布。関連科目は、本講義の基礎知識として有用ですが、本講義でも補足します。

教養特講K（植物進化学）

(Special Lectures on Culture K—Evolutionary Biology of Plants)

担当教員名 矢部 淳				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期集中	単位数 2
オフィスアワー	講義の前後に質問等を受け付けます。			
メールアドレス	yabeatsu@kahaku. go. jp			
授業概要	植物がたどってきたおよそ 5 億年の歴史を、植物化石や様々な地質学的証拠に基づいて紹介する。また、身近な素材を取り上げて、進化や絶滅、分布変化と環境との関わりなどを紹介する。			
到達目標	植物の進化研究において、ある系統の出現年代や絶滅した分類群の情報は遺伝子に基づいた解析だけでは十分に読み解くことができない。本講義では、植物の化石を用いて、現生植物の世界がどのような歴史を経て形成されてきたかを、地球環境の歴史とともに大枠で捕らえることを目標とする。			
授業計画・内容				
1－1：古植物学の導入 1-化石の意味 2：古植物学の導入 2-植物化石の特徴と調べ方 3：化石から過去を復元するには(タフノミー) 4：圧縮化石と鉱化石 2－1：植物の進化-植物が上陸するまで 2：植物の進化-森林の形成 3：植物の進化-種子植物（絶滅した裸子植物） 4：植物の進化-種子植物（現生の裸子植物） 3－1：植物の進化-被子植物 2：中生代の環境変化と植物 3：恐竜博物館の展示を使った授業 1(予定) 4：恐竜博物館の展示を使った授業 2(予定) 4－1：第三紀要素から見る植物の分布変化 2：新生代の環境変化と植生 3：植物化石から過去の気候を推測する 4：期末試験 * 対面での授業が不可能となった場合は、Zoom によるオンライン授業を行う。 【必要な事前・事後学修】 日本地質学会 HP に掲載の地質年代表を事前に印刷もしくは PC 等にダウンロードし、植物が現れた時代を考えておくこと（資料等を自由に調べてよい）。 http://www.geosociety.jp/uploads/fckeditor//name/ChronostratChart_jp.pdf				
キーワード	化石、進化、絶滅、地球史(歴史)、環境			
教科書	なし			
参考書	担当教員の作成した資料を配布する。 「陸上植物の形態と進化」（長谷部光泰著、裳華房）、「化石の植物学 時空を旅する自然史			

	Natural history」(西田治文著、東京大学出版会)「古生物学の百科事典」(日本古生物学会、丸善出版株式会社)(大学図書館等に配架されているので、眺めておくといい)
評価方法・評価基準	各授業途中に GC を用いた確認テスト(80%)を行うとともに、課題や提出物の状況(20%)を合わせて判定する。 現在までの植物進化史の概略を理解できたかどうかを評価する。 * 遠隔授業の場合も同様
関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	【授業計画・内容】に記載
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 国立・地方博物館における標本管理と研究、展示、学習支援の経験がある
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

ドイツ語 I ①

(German I)

担当教員名 村田 幸子				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。			
メールアドレス	pt-murata26@fpu.ac.jp			
授業概要	ドイツオールロケの DVD 教材で、ドイツの最新のトピックに触れつつ、発音練習をするとともに、内容理解に必要な初級文法の基礎を、練習問題を解きながらしっかりと学びます。			
到達目標	ドイツ語、すなわち言語というツールを通して、その言葉が使われている国々の文化や習慣に触れます。さらに、自らの考えを述べ、相手の意見を聞くというコミュニケーション能力を得るための第一歩として、基礎的な文法知識と、「通じる発音」を身につけます。一年を通して、独検 4 級が合格できる実力を目指します。			
授業計画・内容				
第 1 回： 導入 ドイツ語のアルファベット				
第 2 回： ドイツ語の単語と発音				
第 3 回： 第 1 課 規則動詞の現在人称変化(前半)				
第 4 回： 重要動詞の現在人称変化(後半)				
第 5 回： 語順と文型				
第 6 回： 読解とヨーロッパについて				
第 7 回： まとめ				
第 8 回： 第 2 課 名詞の性				
第 9 回： 名詞の格（1, 4 格）				
第 10 回： 所有冠詞				
第 11 回： 読解と家族紹介				
第 12 回： まとめ				
第 13 回： 第 3 課 名詞の複数形				
第 14 回： 名詞の格（2, 3 格）				
第 15 回： 人称代名詞の格変化				
第 16 回： 読解とドイツの食事				
第 17 回： まとめ				
第 18 回： 中間テスト				
第 19 回： 第 4 課 分離動詞				
第 20 回： 非分離動詞				
第 21 回： 話法の助動詞				
第 22 回： 読解と天気				
第 23 回： まとめ				
第 24 回： 第 5 課 前置詞				

第 25 回 :	前置詞の格支配
第 26 回 :	読解と動物園
第 27 回 :	まとめ
第 28 回 : 第 6 課	再帰代名詞と再起動詞
第 29 回 :	命令形
第 30 回 :	読解とまとめ
*但し、遠隔授業の場合 : Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と・課題の提出 となる。	
キーワード	・生きたドイツ語とは? ・知識の積み重ね ・外国文化を知る第一歩 ・コミュニケーションのための基礎をつくる!
教科書	ドイツ語の時間 <わくわくライブツィヒ> 清野智昭/Eva W?lbling 朝日出版社
参考書	授業初めにアドバイスしますので、事前購入は不要です。より文法的知識を深めたい人には、「必携ドイツ文法総まとめ」(中島悠爾ほか・白水社)など。ドイツ語辞書の携帯を推奨。
評価方法・評価基準	期末試験および中間テスト(60%)、平常点(提出課題・発言の有無・学習態度と出席)(40%)により、総合的に評価する。(遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。)
関連科目	ドイツ語 II、III、IV
履修要件	原則として、週に 2 回ある授業を両方受講しなければならない。また、毎時間の予習と、特に復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学修	授業で与えられた課題は、各自、次の講義までに完成させて持参すること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系(ドイツ)企業に勤務していた際の、実務を通じた様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的思考や慣習などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	ドイツの人々の日常生活についての生の情報の他、人気のドイツ音楽や DVD を視聴したり、ドイツ文化なども紹介します。福井とドイツとの深いかかわりや交流の実績についても紹介します。

ドイツ語 I ②

(German I)

担当教員名 村田 幸子				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。			
メールアドレス	pt-murata26@fpu.ac.jp			
授業概要	ドイツ語の日常的な会話を中心に、繰り返し発音練習し、自然なドイツ語を身につけていきます。会話、聞き取り、読解に加えて、初級の基本的な文法を、練習問題を解きながら学びます。なお、本授業では、発声による、より積極的な参加が求められます。			
到達目標	ドイツ語、すなわち言語というツールを通して、その言葉が使われている国々の文化や習慣に触れます。さらに、自らの考えを述べ、相手の意見を聞くというコミュニケーション能力を得るための第一歩として、基礎的な文法知識と、「通じる発音」を身につけます。一年を通して、独検 4 級が合格できる実力を目指します。			
授業計画・内容				
第 1 回： 導 入 ドイツ語のアルファベット				
第 2 回： 単語と発音				
第 3 回： アクセント				
第 4 回： 第 1 課 動詞の現在人称変化（前半）				
第 5 回： 動詞の位置				
第 6 回： 1 人称と 2 人称				
第 7 回： 挨拶、自己紹介、国・専攻				
第 8 回： まとめ				
第 9 回： 第 2 課 並列の接続詞				
第 10 回： sein 動詞				
第 11 回： ja, nein, doch の使い方				
第 12 回： 職業国籍				
第 13 回： まとめ				
第 14 回： 第 3 課 動詞の現在人称変化（後半）				
第 15 回： 形容詞				
第 16 回： 友達の紹介、数詞				
第 17 回： まとめ				
第 18 回： 中間テスト				
第 19 回： 第 4 課 名詞の性と冠詞（1. 4 格）、				
第 20 回： 不規則動詞の現在人称変化				
第 21 回： レストランでの会話				
第 22 回： 持ち物、色、食べ物				
第 23 回： まとめ				
第 24 回： 第 5 課 人称代名詞（1. 4 格）				

第 25 回 :	名詞の複数形
第 26 回 :	住まい、家具、値段を聞く
第 27 回 :	まとめ
第 28 回 :	第 6 課 所有冠詞と否定冠詞
第 29 回 :	家族
第 30 回 :	まとめ
*但し、遠隔授業の場合 : Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と・課題の提出 となる。	
キーワード	・生きたドイツ語とは? ・知識の積み重ね ・外国文化を知る第一歩 ・コミュニケーションのための基礎をつくる!
教科書	Spitze! 1 (シュピッツェ 1) コミュニケーションで学ぶドイツ語 新倉/正木/中野著 朝日出版社
参考書	授業初めにアドバイスしますので、事前購入は不要です。より文法的知識を深めたい人には、「必携ドイツ文法総まとめ」(中島悠爾ほか・白水社)など。ドイツ語辞書の携帯を推奨。
評価方法・評価基準	期末試験および授業内での中間テスト(60%)、プレゼンテーション(10%)、平常点(提出課題・学習態度・出席)(30%)により、総合的に評価します。(遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。)
関連科目	ドイツ語 II、III、IV
履修要件	原則として、週に 2 回ある授業を両方受講しなければならない。また、毎時間の予習と、特に復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学修	授業で与えられた課題は、次の講義までに完成させて持参すること。発音は各自で復習し、授業内での会話にスムーズに参加できるようにすること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系(ドイツ)企業に勤務していた際の、実務を通した様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的思考や慣習などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	ドイツの人々の日常生活についての生の情報の他、人気のドイツ音楽や DVD を視聴し、ドイツ文化を体験します。福井とドイツとの深いかかわりと交流の実績についても紹介します。

ドイツ語Ⅱ①

(German II)

担当教員名 村田 幸子				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。			
メールアドレス	pt-murata26@fpu.ac.jp			
授業概要	半年の入門ドイツ語を習得したことを前提に、さらに文法知識を拡充します。引き続き、ドイツオールロケ DVD を教材に用いながら、より高度な表現法を身につけます。			
到達目標	ドイツ語文法の基礎知識をさらに広げ、独検 4 級～3 級合格程度の実力を身につけます。異文化への理解を深めながら、ドイツへの旅行や、短期滞在の際にも使える日常的な会話の習得を目標とします。			
授業計画・内容				
第 1 回： 前期の復習と後期への導入				
第 2 回： 家族の名前、不定冠詞の復習				
第 3 回： 様々な代名詞の復習と練習				
第 4 回： 第 7 課 形容詞				
第 5 回： 形容詞の格変化				
第 6 回： 比較級と最上級				
第 7 回： 読解とモードについて				
第 8 回： まとめ				
第 9 回： 第 8 課 定冠詞類				
第 10 回： 定冠詞類の格変化				
第 11 回： 従属の接続詞と副文				
第 12 回： 読解とドイツのワインについて				
第 13 回： まとめ				
第 14 回： 第 9 課 現在完了形				
第 15 回： 過去分詞				
第 16 回： 過去形				
第 17 回： まとめ				
第 18 回： 中間テスト				
第 19 回： 第 10 課 受動態				
第 20 回： 関係代名詞				
第 21 回： 読解とドイツのクリスマスについて				
第 22 回： まとめ				
第 23 回： 第 11 課 zu 不定詞句				
第 24 回： 未来形				

第 25 回： 読解とドイツの環境政策について 第 26 回： まとめ 第 27 回： 第 12 課 接続法 第 28 回： 非現実話法 第 29 回： 読解とメール（手紙）の書き方 第 30 回： まとめ **但し、遠隔授業の場合：Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と・課題の提出 となる。	
キーワード	・知識の積み上げ ・外国文化や習慣への理解 ・コミュニケーション能力をつけよう！
教科書	ドイツ語の時間 〈わくわくライプツィヒ〉 清野智昭/Eva W?lbling 朝日出版社
参考書	随時、必要に合わせて授業の中で紹介します。 ドイツ語辞書の携帯を推奨します。(電子辞書でも可)
評価方法・評価基準	期末試験および中間テスト (60%)、平常点 (提出課題・発言の有無学習態度・出席) (40%) により、総合的に評価する。(遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。)
関連科目	ドイツ語 I、III、IV
履修要件	ドイツ語 I を履修していること。また、前期で学んだことを土台に、さらに知識を広げて行きますので、より一層、復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学修	授業で与えられた課題は、各自、次の講義までに完成させて持参すること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系(ドイツ)企業に勤務していた際の、実務を通した様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的思考などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	映画鑑賞などで、ドイツ語圏文化への理解を深め、身につけた語学力を確認します。 なお、ドイツのクリスマス文化についても紹介します。

ドイツ語Ⅱ②

(German II)

担当教員名 村田 幸子				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	授業に関する質問・要望については、授業の後、およびメールでも対応します。			
メールアドレス	pt-murata26@fpu.ac.jp			
授業概要	半年の入門ドイツ語を習得したことを前提に、表現法と文法知識をさらに拡充します。引き続き、ドイツ語の日常的な会話を中心に自然なドイツ語を身につけていきますので、本授業では、より積極的な発声での参加が求められます。			
到達目標	ドイツ語文法の基礎知識をさらに広げ、独検 4 級にも対応できる実力を身につけます。異文化への理解を深めながら、ドイツへの旅行や、短期滞在の際にも使える日常的な会話の習得を目標とします。			
授業計画・内容				
第 1 回： 前期の復習と後期への導入				
第 2 回： 発音練習				
第 3 回： 様々な冠詞の復習				
第 4 回： 第 7 課 不規則動詞の現在人称変化（2）				
第 5 回： 趣味、余暇活動				
第 6 回： 曜日と頻度				
第 7 回： まとめ				
第 8 回： 第 8 課 所有冠詞				
第 9 回： 人称代名詞（3 格）				
第 10 回： 贈り物				
第 11 回： 身につけるもの、数詞				
第 12 回： まとめ				
第 13 回： 第 9 課 話法の助動詞				
第 14 回： 未来形				
第 15 回： 予定の取り決め、ホテルの受付				
第 16 回： 規則と願望				
第 17 回： まとめ				
第 18 回： 中間テスト				
第 19 回： 第 10 課 時・場所を表す前置詞				
第 20 回： 道案内				
第 21 回： 交通手段				
第 22 回： まとめ				
第 23 回： ドイツのクリスマスについて				
第 24 回： 第 11 課 分離動詞				

第 25 回 :	時刻表現
第 26 回 :	1 日の行動
第 27 回 :	まとめ
第 28 回 :	第 12 課 現在完了形
第 29 回 :	旅行、四季、天候
第 30 回 :	まとめ
**但し、遠隔授業の場合 : Zoom によるオンライン授業、および Google Classroom による教材の提供と・課題の提出 となる。	
キーワード	・知識の積み上げ ・外国文化や習慣への理解 ・コミュニケーション能力をつけよう！
教科書	Spitze! 1 (シュピッツェ 1) コミュニケーションで学ぶドイツ語 新倉/正木/中野著 朝日出版社
参考書	随時、必要に合わせて授業の中で紹介します。 ドイツ語辞書の携帯を推奨します。(電子辞書でも可)
評価方法・評価基準	期末試験および授業内での中間あるいは小テスト(60%)、プレゼンテーション(10%)、平常点(提出課題・学習態度・出席)(30%)により、総合的に評価します。(遠隔授業の場合も、評価・試験のやり方は変わるが、基本的に変更なし。)
関連科目	ドイツ語 I、III、IV
履修要件	ドイツ語 I を履修していること。また、前期で学んだことを土台に、さらに知識を広げて行きますので、より一層、復習に力を注いで下さい。
必要な事前・事後学習	授業で与えられた課題は、各自、次の講義までに完成させて持参すること。発音は各自で復習し、授業内での会話にスムーズに参加できるようにすること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 外資系(ドイツ)企業に勤務していた際の、実務を通した様々な体験や、非営利団体である日独友好親善協会での活動を通し、そこから見えるドイツ的思考方などを紹介します。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	映画鑑賞などで、ドイツ語圏文化への理解を深め、身につけた語学力を確認します。 なお、ドイツのクリスマス文化についても紹介します。

地理学

(Geography)

担当教員名 石丸 香苗				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	メールで事前連絡の上随時受け付ける			
メールアドレス	ishimaru@fpu.ac.jp			
授業概要	地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問です。本授業では、地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や真実を見出すことが出来るのかを練習し、空間的視点を身に着けることを目的とします。			
到達目標	①世の中の事象が、空間情報から整理や分析をされることによって、色々な傾向や特徴が発見できることを理解する。 ②身の回りの事象を空間情報から整理して考えられる。			
授業計画・内容				
毎回の授業は、簡単な小テスト(正解・不正解ではなく思考のプロセスを見ます)・講義・感想文から構成されます。また、状況に応じて学生同士のディスカッションも行います。 大学近辺でのフィールドワークを入れますが、履修者が 40 名以上の場合は二部制で行うため、昼休みも利用する場合がありますのでご了承ください。授業のスケジュールは変更する場合があります。 <<スケジュール>> 1. ガイダンス 2. 地理学の歩き方 3. 地理学の成り立ち 4. 地形図を読もう① 5. 地形図を読もう② 6. 兼定島フィールドワーク 7. 災害から身を守る地理 8. 世界の格差に関するワークショップ 9. 世界の格差と地理 10. 世界の地誌学(ゲストスピーカー) 11. 言語地理 12. 身の周りの地理 13. 地理情報利用の演習 14. まとめ 15. レポート課題について 【その他】 ・聴覚や視覚などの受講にあたって配慮が必要な障害等がある学生は事前に御連絡ください。 受講がスムーズにいくように工夫を検討します。 ・準備学習は必要時には適宜指示します。指示があるとき以外は、前回の学習内容を確認しておいてください。				

- ・遠隔授業の場合は、Zoom と LMS を利用します。

キーワード	空間情報、自然、暮らし、整理、分析、地図
教科書	なし。適宜教員から資料を配布します。
参考書	各單元ごとに LMS で紹介します。復習として勉強したい人は参照してください。
評価方法・評価基準	毎回行う小テスト(25%)、感想(25%)、期末レポート(50%) 小テストは正解かどうかよりも、何からどう考え判断したかを評価します。感想はどのような視点で授業内容を理解したかについて評価します。期末レポートは研究調査形式です。遠隔の場合の評価方法も同じです。
関連科目	なし。
履修要件	特になし。地図や路線図が好きな人、旅が好きな人などには向いていると思います。
必要な事前・事後学修	準備学習は必要時には適宜指示します。指示があるとき以外は、前回の学習内容を確認しておいてください。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 防災分野の実務経験あり
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	履修定員 90 名。定員を上回った場合は抽選を行います。履修希望者は初回授業に出席してください。初回で定員を上回った場合、履修できないことがあります。

導入ゼミ（恐竜を科学的に考える）

(First Year Student Seminar)

担当教員名 柴田正輝・河部壮一郎・今井拓哉・服部創紀				
科目区分 一般 必修	授業方法 講義	対象学年 1	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	事前にメール等で連絡をしてください。			
メールアドレス	柴田：sdino, 河部：kawabe, 今井：t_imai, 服部：s-hattori, に@fpu.ac.jp			
授業概要	これから大学での講義を受けていく上での必要な基礎的技術（プレゼン、ディスカッション、レポート作成など）を、恐竜を通して学ぶ。恐竜博物館の展示標本など恐竜を題材として、コミュニケーションや科学的思考、表現などを学ぶ。			
到達目標	コミュニケーションやプレゼンテーションスキル、レポートの書き方など大学での学問や研究に必要な基本的なスキルを習得する。 学内外情報を、図書館、データベースなど学内外のリソースなどを用いて検索するを身こ とができる。 多様な専攻の学生と異なる視点を共有し、自身の意見を伝えることができる。			
授業計画・内容				
本講義では、これから大学において講義を受ける上で必要なスキルを、以下の4つのトピックに分けて行う。 科学的手法や思考、表現などを、「恐竜」をテーマに学習するため、恐竜博物館での観察やスケッチ、テーマにもとづいたディスカッション、プレゼン、レポート作成など、授業への積極的な取組姿勢を必要とする。 第1回 イン트로ダクション（柴田） 第2回 コミュニケーション1：アカデミックスキル（柴田） 第3回 コミュニケーション2：問いの発見（柴田） 第4回 コミュニケーション3：テーマの発見（柴田） 第5回 コミュニケーション4：伝える、伝わる（柴田） 第6回 読む、調べる1：論文の読み方（服部） 第7回 読む、調べる2：論文の調べ方（服部） 第8回 読む、調べる3：議論（服部） 第9回 プレゼンテーション1：プレゼンテーションの基礎（今井） 第10回 プレゼンテーション2：方法（今井） 第11回 プレゼンテーション3：グループによるプレゼンテーション（今井） 第12回 レポート作成1：レポートの基礎（河部） 第13回 レポート作成2：引用の重要性と方法（河部） 第14回 レポート作成3：グループ議論（河部） 第15回 レポート作成4：レポート完成（河部） ※遠隔授業となった場合、ZoomとGoogle Classroomを利用して講義を行う。また、評価方法・評価基準も変更になる可能性があります。				
キーワード	恐竜、導入、新入生			
教科書	特に無し			
参考書	特に無し			
評価方法・評価基準	各講義での課題（50％）とレポートの内容（50％）で評価。			

関連科目	無し
履修要件	無し
必要な事前・事後学修	講義時に教員が指示します。
実務経験のある教員による授業内容	全教員、恐竜博物館の研究職員を併任。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	プリントは随時配布。

キャリア形成論

(Introduction to Career Development)

担当教員名 森本 康太郎				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	随時（メールで事前に連絡をください）			
メールアドレス	morimoto 末尾に「@」と「fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	本科目では、学生生活の充実とキャリアデザインの関連を確認したうえで、環境・職業理解および自己理解を深め、自身の目指すキャリアデザインを検討することを目的とする。			
到達目標	①職業や産業、労働の世界に関する基礎的事項を理解できる。 ②自己理解を通じて得られた気づきを文章で表現できる。 ③自身の目指すキャリアデザインについて考えることができる。			
授業計画・内容				
1 オリエンテーション 2 大学での学びとキャリアデザイン 3 大学生活の価値観 4 社会を見る視点 5 経済・雇用をめぐる環境の理解① 6 経済・雇用をめぐる環境の理解② 7 労働とお金 8 ワークルール 9 キャリアデザインの実践に向けて 10 自己理解の必要性 11 人生経験からの自己理解 12 コミュニケーション 13 ストレスへの向き合い方① 14 ストレスへの向き合い方② 15 まとめ 遠隔授業で実施する場合は、オンデマンド方式（コンテンツ配信）とオンライン方式（Zoom によるリアルタイム接続）を併用する予定です。				
キーワード	キャリア 大学での学び 職業理解 自己理解			
教科書	特に用いない。授業で使用する資料やワークシート等は、その都度配布する。			
参考書	川崎友嗣編著『大学生のためのキャリアデザイン—自分を知る・社会を知る・未来を考える』ミネルヴァ書房 2019 年 藤村博之編著『考える力を高めるキャリアデザイン入門—なぜ大学で学ぶのか』有斐閣 2021 年			
評価方法・評価基準	定期試験を行わず、平常試験（小テスト・レポート等）で総合評価する。 評価の割合は、平常試験（ワークシート、ミニッツペーパー等）：60%、レポート：40%とする。 なお、授業を 4／5 以上出席した者を評価の対象とする。 遠隔授業になった場合も同様			

関連科目	経済学部経済学科、経済学部経営学科の学生は、本科目ではなく、専門関連科目のキャリアデザイン概論Ⅰおよびキャリアデザイン概論Ⅱを受講すること。
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	授業資料や引用文献・参考資料等を読み、授業内容を理解し、自己のキャリア形成に関する考察に生かせるようにすること。 欠席した授業は授業資料を読み理解を進めること。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 語学教育を中心とする教育関連企業と、総合大学・付属学校を運営する学校法人における実務経験を有する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	ワークシート、ペア/グループワークなどの課題を含めた授業を展開するので、積極的に取り組まれない。

東南アジアの文化と社会

(Culture and Society of Southeast Asia)

担当教員名 加藤 裕美					
科目区分	一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	メールで事前連絡の上、随時受け付ける。				
メールアドレス	kato の後に@と fpu. ac. jp を付ける。				
授業概要	東南アジアは、シンガポール、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、フィリピンなどの 11 か国から構成されている。この授業では、自然、民族、社会、文化など様々な視点から東南アジアを学び、日本と東南アジアのつながりについて考察できるようになることを目指す。				
到達目標	1. 東南アジアの自然・社会・文化について理解できる。 2. 東南アジア各国の特徴を理解し、現代的状況を分析できる。 3. 東南アジアと日本のつながりについて説明できるようになる。				
授業計画・内容					
東南アジアは現在、急成長している地域であり、多くの日本企業が進出している。また東南アジア由来のモノも私たちの身の回りに溢れている。この授業では、急速に変化する東南アジアを自然、国家、民族、文化など様々な視点から学んでいく。					
第 1 回	ガイダンス	＜東南アジアの国々＞			
第 2 回	東南アジアの自然と生業	＜熱帯雨林、マングローブ、希少生物＞			
第 3 回	東南アジアの国家と民族	＜多民族国家、国民統合、多文化政策＞			
第 4 回	東南アジアの都市生活	＜メガシティ、人口過密、スラム＞			
第 5 回	東南アジアの海の暮らし	＜漂海民、海洋資源、伝統捕鯨＞			
第 6 回	映画で学ぶ東南アジア	＜タイ、フィリピン、シンガポールの映画＞			
第 7 回	東南アジアの経済	＜ASEAN 経済、日系企業、日本経済との関係＞			
第 8 回	中間まとめ	＜小括＞			
第 9 回	福井に暮らす東南アジアの人々	＜技能実習生、看護師、介護士＞			
第 10 回	介護・福祉と東南アジア	＜介護・福祉＞			
第 11 回	福井の産業と東南アジア人材	＜農業、漁業、技能実習生＞			
第 12 回	農業を通じた国際協力	＜国際協力、青年海外協力隊＞			
第 13 回	東南アジアの医療と看護	＜病院、医療、国際協力＞			
第 14 回	時事トピック	＜時事トピック＞			
第 15 回	まとめ	＜振り返り＞			
* 遠隔授業の場合、Google Classroom を用いた資料の配布と、Zoom を用いたオンライン授業を行う。					
* 授業の順番が前後する可能性がある。					
* ゲストスピーカーによる授業を含む。					
キーワード	東南アジア、文化、社会、民族、自然、多文化社会				
教科書	なし。教員が作成したレジュメを毎回配布する。				
参考書	* 購入しなくてよい* 『東南アジアを知るための 50 章』 今井昭夫、明石書店、2014。				

	『東南アジア地域研究入門 1～3』井上真ほか、慶應義塾大学出版会、2017。 『アジアの多文化社会と国民国家』西川長夫ほか、人文書院、1998。
評価方法・評価基準	授業中に毎回おこなう小テストや課題と、授業への取り組みにより、授業で扱った内容の理解度を評価する。 遠隔授業の評価方法も同じ。
関連科目	東アジアの文化と社会、イスラーム史
履修要件	
必要な事前・事後学修	・事前学修は、日頃から新聞やニュースに目を通し、東南アジアに関する時事情報をチェックすること。 ・事後学修は、配布したレジュメを読み直すこと。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 東南アジアでの実務経験のあるゲストスピーカーによる講義を含む。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

福井の文化と社会

(Community culture and Media representation)

担当教員名 村上純一郎				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	講義のあとに1時間程度			
メールアドレス	j.murakami.mumm@gmail.com			
授業概要	福井新聞社と連携してコラム執筆の実践ワークショップを行います。福井という究極のローカルを通じて社会の輪郭をとらえ、それを象徴する文化にせまり、自分の意見を持つこと・表現することを学びます。			
到達目標	社会の事実をとらえつつも、自分の意見をもつための感性を磨きます。また、他者との意見の違いを面白がれるコミュニケーションを学び、混沌としたインターネット社会における表現手法を身に着けます。			
授業計画・内容				
① オリエンテーション ② 意見と事実 →授業の全体像を説明し、混沌とした社会を丁寧に捉えるための意見と事実の違いを学びます。 ③ コラムって何？ →新聞記事などを使いながら、コラムとは何なのか、実際のコラムを読みながら考えます。 ④ 新聞とマスメディア →論文や記事とコラムの違い、新聞・マスメディアの役割、について学びます。 ⑤ コラムを書いてみる ① →コラム執筆を実践し、振り返ります。 ⑥ コラムを書いてみる ② →コラム執筆を実践し、振り返ります。 ⑦ コラム講評会① →優れたコラムをクラスで共有し、学びを深め合います。 ⑧ 文化と社会 →文化とは何かを深掘りし、授業内でディスカッションを行います。 ⑨ 福井の文化 →福井の文化とは何かを深掘りし、福井を通じて複雑な社会を捉える感覚を磨きます。 ⑩ 表現とコミュニケーション →コラム執筆における表現手法について学びます ⑪ 独自の視点と感性 →コラム執筆に重要となる、独自の視点や感性を鍛えるコツを考えます。 ⑫ コラムを書いてみる ③ →オンラインメディアでの掲載を想定してコラム執筆します。				

⑬ コラムを書いてみる ④

→オンラインメディアでの掲載を想定してコラム執筆します。

⑭ コラム講評会②

→優れたコラムをクラスで共有し、学びを深め合います。

⑮ クロージングセッション

→コラム作成・講評を通して学んだことや気づきについて整理します。

遠隔授業の場合、ZOOM によるオンライン授業、Google Classroom による課題提出も予定。

キーワード	福井、文化、メディア、コラム、地域社会、ローカル、事実、意見、視点、感性、表現
教科書	担当教員が授業開始後に指定。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	レポート（コラム）作成（50%）/授業への取り組み（50%） コラム執筆と授業中の議論・ワークショップによる加点方式。 遠隔の場合も同様とする。 授業への取り組みは、コラム執筆に必要な概念である、意見/事実に関する発言・質問の有無を基準に、総合的に判断する。
関連科目	特になし
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	特になし
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 福井県内外で地域社会に関わる実験的企画をつくり、テレビ・ラジオなどのメディアで日々情報発信・表現している立場と経験から、実践と対話による新しい学びの場を目指す。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	福井新聞社の担当社員（記者）と連携し、面白いコラムは、学生の同意のもと福井新聞オンラインにて記事を公開予定。

言語文化（中国）A

(Language and Culture (China) A)

担当教員名 加藤 錦霞				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	授業前後に対応する			
メールアドレス	授業時に伝える			
授業概要	中国語には様々な方言がある、中国で普及している標準語はいつから使うようになったのかを学習し、世界三大料理の一つである中国料理、中国の四大不朽名作を解説していく。また、中国の文化、現代中国人たちの生活などを通じて総合的に中国を理解する。			
到達目標	この授業を通して、言語(中国語)の背景にある中国文化、中国の歴史などをより理解するとともに、現代の中国社会と中国人の生活を知ることと国際感覚を養うことを目標とする。			
授業計画・内容				
第1回： 中国語概要(中国語標準語、方言など)				
第2回： 中華料理概要(分類・作り方の種類など、中華料理体験がある)				
第3～4回： 映像を通じて中華料理を知る)				
第5～7回： 中国の不朽な名作 西遊記、水滸伝				
第8～10回、 中国の不朽な名作 紅樓夢、三国演義				
第11～12回： 中国人の住居の変移(従来の中国式建築から高層ビルへの住居変化)				
第13回： 中国人の娯楽の一つ-広場ダンス				
第14回： 中国の IT 事情				
第15回： 中国の大学と日本の大学の共通点と相違点				
遠隔授業になった場合のツール：Zoom と GC です。				
キーワード	中国文化、料理、生活			
教科書	プリント配布			
参考書				
評価方法・評価基準	学習態度・レポート提出により評価する。 遠隔授業となった場合も同じです。			
関連科目				
履修要件	中国歴史、文化に興味があるもの			
必要な事前・事後学修	特にありません			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国の大学での教員経験に基づき、中国の大学生生活、中国の過去と現在を講述する			
施行規則に定める科目区分又は事項等				
その他				

言語文化（中国）B

(Language and Culture (China) B)

担当教員名 加藤 錦霞				
科目区分 一般 選択	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	授業前後に対応する			
メールアドレス	最初の授業時に伝える			
授業概要	この授業は中国の行政区分(直轄市、省、市)、教育(小・中・高校・大学)、及び漢民族と少数民族の文化や風習の違い、中国の民族音楽(二胡)、中国のお茶、近年盛んになっている中国観光、東洋医学の理論、様々な方面から中国を紹介する。			
到達目標	この授業を通して、言語(中国語)の背景にある中国文化、多方面から学習し、より中国理解することと国際感覚を養うことを目標とする。			
授業計画・内容				
第1回： 授業進め方の説明、中国の教育(大学入試など)				
第2～4回： 中国の民族音楽（閃光少年を通して、理解する）				
第5～7回： 中国の京劇				
第8～9回： 中国の少数民族				
第10～11回： 中国茶（お茶の種類、産地、作法など、中国茶を試飲する）				
第12～13回： 東洋医学（陰陽五行説、薬膳）				
第14～15回： 中国の春節（春節の過ごし方、中国のせち料理）				
遠隔授業になった場合のツール：Zoom と GC です。				
キーワード	中国語 中国文化			
教科書	資料配布			
参考書				
評価方法・評価基準	学習態度・レポート提出することにより評価する。 遠隔授業となった場合も同じです。			
関連科目				
履修要件				
必要な事前・事後学修	特にありません。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 中国の大学での教員経験に基づき、中国の大学生活・中国事情などを紹介する。			
施行規則に定める科目区分又は事項等				
その他	授業内容と順番は変更する場合があります。			

地域社会とフィールドワーク B（地域資源開発実践 1）

(Regional Fieldwork B (Practice in Regional resource development 1))

担当教員名 石丸 香苗				
科目区分 一般 選択	授業方法 その他	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	メールで事前連絡の上随時受け付ける			
メールアドレス	ishimaru@fpu.ac.jp			
授業概要	必ず連続の「地域社会とフィールドワーク C」と両方を履修してください。2 コマ連続で 4 単位を出す授業です。どちらか片方だけ履修することはできません。片方だけ登録した場合は単位が出ませんので、注意してください。永平寺町の地域の方々へのヒアリングや文献調査などで得られた情報をもとに、動画編集ソフトを使って永平寺町をアピールする動画を作成します。授業は平日の講義や演習と、週末のフィールドワークの回があります。			
到達目標	・ ヒアリングや文献などから、目的に必要な地域の情報を抽出できる ・ 得られた情報を整理し、届けたいターゲットに適切な形で発信できる ・ 異なる専門分野の学生や、世代の異なる様々な地域の方々と、コミュニケーションをとることができる ・ グループや地域の方々との連絡方法のマナーを身につける ・ 永平寺町の文化や産業などの特色を知り理解を深める			
授業計画・内容				
地域社会とフィールドワーク B・C と合わせた授業計画を示す。なお、各単元の順番や割り当ては、都合によって変わることがある。 1. 2 ガイダンス、永平寺町の紹介 (4/8) 3. 4 映像制作の流れ、簡単な映像を試作してみる (4/15) 5. 6. 7 永平寺町散策(フィールドワーク、4/20 土曜日) 8. 9. 永平寺町の情報を集める(フィールドワーク、5/9) 10. 11 映像分析、CM 分析、著作権の理解 (5/13) 12. 13. インタビューの方法、テーマ設定、企画 (グループワーク) (5/20) 14. 15. 16 永平寺町インタビュー(フィールドワーク、5/25 土曜日) 17. 18 ビデオカメラの使い方と試し撮り (グループワーク) (6/3) 19. 20 脚本作成 (6/10) 21. 22 永平寺町撮影(フィールドワーク、6/10 から 24 までの期間で各班地域の方と相談の上設定) 23. 動画編集① 映像の取り込み、トリミング、クリップ操作 (6/24) 24. 動画編集② 映像の演出 (トランジション、エフェクト、映像合成) (6/24) 25. 動画編集③ テキスト・サウンドの編集 (7/1) 24. 映像作成 (7/1) 25～28 映像作成 (7/1 から 7/19 までの期間で各自・各班で自主的に作成) 29. 30. 上映会、相互評価 (7/22)				
キーワード	永平寺町、地域、情報発信、動画作成			
教科書	特になし。適宜教員から資料を配布します			
参考書	山本浩司著、動画編集&DVD 作成プロ技 BEST セレクション—Premiere Elements 対応版(今すぐ使えるかんたん Ex)、2019、技術評論社 動画編集を行う情報演習室にて参照可能			

評価方法・評価基準	最終課題と授業への積極性を総合的に評価します。最終課題は、上映会に参加した学内外の参加者らによる評価と、履修者の相互評価の合計から算出する。
関連科目	地域社会とフィールドワーク C その他の地域関連科目
履修要件	必ず連続の「地域社会とフィールドワーク C」と両方を履修してください。2コマ連続で4単位を出す授業です。どちらか片方だけ履修することはできません。片方だけ登録した場合には単位が出ませんので、注意してください。
必要な事前・事後学修	時間外にグループ等で打ち合わせをしたり、地域の方への連絡を取ってもらうことがあります。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 官公庁の防災意識啓発ビデオ企画作成の経験あり
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	【授業計画・内容】に記載

地域社会とフィールドワーク C (地域資源開発実践 2)

(Regional Fieldwork C (Practice in Regional resource development 2))

担当教員名 石丸 香苗				
科目区分 一般 選択	授業方法 その他	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	メールで事前連絡の上随時受け付ける			
メールアドレス	ishimaru@fpu.ac.jp			
授業概要	必ず連続の「地域社会とフィールドワーク B」と両方を履修してください。2 コマ連続で 4 単位を出す授業です。どちらか片方だけ履修することはできません。片方だけ登録した場合は単位が出ませんので、注意してください。永平寺町の地域の方々へのヒアリングや文献調査などで得られた情報をもとに、動画編集ソフトを使って永平寺町をアピールする動画を作成します。授業は平日の講義や演習と、週末のフィールドワークの回があります。			
到達目標	・ヒアリングや文献などから、目的に必要な地域の情報を抽出できる ・得られた情報を整理し、届けたいターゲットに適切な形で発信できる ・異なる専門分野の学生や、世代の異なる様々な地域の方々と、コミュニケーションをとることができる ・グループや地域の方々との連絡方法のマナーを身につける ・永平寺町の文化や産業などの特色を知り理解を深める			
授業計画・内容				
地域社会とフィールドワーク B・C と合わせた授業計画を示す。なお、各単元の順番や割り当ては、都合によって変わることがある。 1. 2 ガイダンス、永平寺町の紹介 (4/8) 3. 4 映像制作の流れ、簡単な映像を試作してみる (4/15) 5. 6. 7 永平寺町散策(フィールドワーク、4/20 土曜日) 8. 9. 永平寺町の情報を集める(フィールドワーク、5/9) 10. 11 映像分析、CM 分析、著作権の理解 (5/13) 12. 13. インタビューの方法、テーマ設定、企画 (グループワーク) (5/20) 14. 15. 16 永平寺町インタビュー(フィールドワーク、5/25 土曜日) 17. 18 ビデオカメラの使い方と試し撮り (グループワーク) (6/3) 19. 20 脚本作成 (6/10) 21. 22 永平寺町撮影(フィールドワーク、6/10 から 24 までの期間で各班地域の方と相談の上設定) 23. 動画編集① 映像の取り込み、トリミング、クリップ操作 (6/24) 24. 動画編集② 映像の演出 (トランジション、エフェクト、映像合成) (6/24) 25. 動画編集③ テキスト・サウンドの編集 (7/1) 24. 映像作成 (7/1) 25～28 映像作成 (7/1 から 7/19 までの期間で各自・各班で自主的に作成) 29. 30. 上映会、相互評価 (7/22)				
キーワード	永平寺町、地域、情報発信、動画作成			
教科書	特になし。適宜教員から資料を配布します			
参考書	山本浩司著、動画編集&DVD 作成プロ技 BEST セレクション—Premiere Elements 対応版(今すぐ使えるかんたん Ex)、2019、技術評論社 動画編集を行う情報演習室にて参照可能			

評価方法・評価基準	最終課題と授業への積極性を総合的に評価します。最終課題は、上映会に参加した学内外の参加者らによる評価と、履修者の相互評価の合計から算出する。
関連科目	地域社会とフィールドワーク B その他の地域関連科目
履修要件	必ず連続の「地域社会とフィールドワーク B」と両方を履修してください。2コマ連続で4単位を出す授業です。どちらか片方だけ履修することはできません。片方だけ登録した場合には単位が出ませんので、注意してください。
必要な事前・事後学修	時間外にグループ等で打ち合わせをしたり、地域の方への連絡を取ってもらうことがあります。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 官公庁の防災意識啓発ビデオ企画作成の経験あり
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	【授業計画・内容】に記載

体育実技Ⅲ（ユニバーサルスポーツ）

(Physical TrainingⅢ : Universal Sports)

担当教員名 石原 一成、小林 靖幸				
科目区分 一般 選択		授業方法 実技	対象学年 1 年	開講期 後期集中 単位数 1
オフィスアワー	火曜日 3～4 時限 体育館管理室			
メールアドレス	ishihara(at) fpu. ac. jp ※ (at) は @ に置き換えて下さい			
授業概要	子どもや高齢者、障がいのある人など、誰もが楽しめるように工夫されたスポーツ（ユニバーサルスポーツ）について学び、体験し、理解する。			
到達目標	①様々なユニバーサルスポーツの特徴や楽しみ方を理解する ②自分の体力や技術を認識し、自分に応じたスポーツの実施方法を見出し、主体的にスポーツに取り組む力を養う ③配慮や理解を必要とする様々な状態にある人たちと共に活動していくための工夫ができる視点、姿勢を持つきっかけをつくる			
授業計画・内容				
1. オリエンテーション 2～3. ユニバーサルスポーツの理解・体験 4～7. イベント・交流大会への参加① 8～11. イベント・交流大会への参加② 12～14. イベント・交流大会の運営・サポート 15. まとめ、テスト、レポート 下記の種目を受講人数や受講者の状況に応じて実施する。 ・パラスポーツ（ボッチャ、ブラインドサッカー、ゴールボールなど） ・フライングディスク種目（ディスタンス、アキュラシーガなど） ・バレーボール系種目（フロアバレーボール、シットイングバレーボール、風船バレーボールなど） ・卓球系種目（卓球バレー、サウンドテーブルテニスなど） ・車椅子種目（スラローム、車いすサッカー、車椅子バスケットボール・車いすテニスなど） ・レクリエーション系種目（モルック、ペタンク、スポーツチャンバラ、スポーツ吹矢など） ユニバーサルスポーツとは、年齢や国籍、障害の有無、スポーツの得意不得意に関わらず、多くの人と一緒に楽しめるスポーツの総称で、誰でも参加でき、楽しめるという点から、共生社会の実現への寄与も期待されている。 授業の特性により、遠隔授業に切り替えての実施ができない科目のため、対面授業が実施できない場合は、「不開講」となる。				
キーワード	ユニバーサルスポーツ、ダイバーシティ、コミュニケーション、ノーマライゼーション、共生社会			
教科書	特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業において直接配布する。			
参考書	必要・希望に応じて紹介する。			
評価方法・評価基準	①授業に対する積極的な参加態度（受講者との協力・状況判断とその対応・コミュニケーション能力）（60%） ②集団技能（ゲームの結果や内容をチーム毎に評価する）（20%） ③基礎理論・説明の理解度（20%）			

	により総合的に評価する。なお、実技科目である特性上、4 回以上欠席した場合、単位の修得は非常に困難になる。
関連科目	体育実技Ⅰ、体育実技Ⅱ、スポーツ科学、運動処方論
履修要件	オリエンテーションを含めた学内で行う授業に出席しない学生の参加は認めない。また、授業内容の充実と安全性を考え、受講人数を制限することがある。
必要な事前・事後学修	講義中に適宜指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり クラブマネジャーの資格を持ち、ユニバーサルスポーツ教室やスポーツ体験イベントなどを行っている総合型地域スポーツクラブの代表を務める教員（小林）が、ユニバーサルスポーツの学科および実技指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育
その他	後期の土曜日・日曜日の4日間を利用して実施予定（1日：学内実習、3日：学外実習（春江西コミュニティセンター、福井県社会福祉センター、他））。

情報科学 I

(Information Literacy I)

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 必修	授業方法 講義	対象学年 1年・看護福祉学部	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも。ただし不在の場合があるのでメールで日程調整することが望ましい。			
メールアドレス	tsanada@fpu.ac.jp			
授業概要	情報社会を生きる上で必要な次の知識と思考を学ぶ。 (1) 情報社会で起きている変化 (2) 情報倫理、情報を扱ううえでの留意事項、情報セキュリティ (3) 情報をクリティカルに読み解く能力（メディアリテラシー） (4) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの仕組みと機能 (5) 社会におけるデータ・AI の利活用、留意事項			
到達目標	(1) 情報社会の変化や最近の動向、問題を理解している。 (2) 情報倫理、データ倫理を身に付けており、様々な脅威に対し、基本的な情報セキュリティ対策がとれる。 (3) 様々なメディアの特性を理解し、適切な基準で情報の選択や論理的な分析ができる。 (4) コンピュータを構成する要素として、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの仕組みを理解し、活用できる。 (5) AI・データサイエンスを学ぶことの意義、活用領域、使われている技術、AI で出来ることと出来ないことを理解している。			
授業計画・内容				
第1回	イントロダクション			
第2回	第1章：情報社会 — 情報社会への動き、情報社会が抱える問題 —			
第3,4回	第2章：インターネット — インターネットの歴史・サービス・仕組み・セキュリティ —			
第5,6回	第3章：情報倫理とセキュリティ — 情報社会への参画、著作権、情報を扱ううえでの留意事項、情報セキュリティ —			
第7,8回	第4章：メディアリテラシー — 定義、基本的な視点、クリティカルシンキング、ソーシャルメディア・AI 時代のメディアリテラシー、実践 —			
第9,10回	第5章：情報とコンピュータ — 情報とは何か、人体の情報処理、情報をはかる、情報のデジタル表現、情報量と圧縮 —			
第11回	第6章：コンピュータの管理 — コンピュータの基本構成、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの管理 —			
第12回	第7章：アルゴリズムとプログラミング			
第13,14回	第8章：人工知能（AI）とデータサイエンス —AI の定義・活用事例・歴史・仕組み、生成 AI、AI の限界と留意点、データサイエンスのステップ・目的・活用分野—			
第15回	まとめ			
授業の進捗により、実施回は前後することがある。ゲストスピーカーによる授業を含む。				

遠隔授業となった場合、Zoom や LMS (FPU-LMS や GoogleClassroom 等) を利用して授業を行う。

授業の実施方法は、授業回によって異なる。詳細は授業で指示する。

キーワード	情報リテラシー、情報倫理、情報セキュリティ、メディアリテラシー、コンピュータリテラシー、AI、データサイエンス
教科書	徳野淳子・山川修・田中武之共著「情報リテラシー(第4版)」森北出版 2022
参考書	
評価方法・評価基準	「到達目標」に示す能力が身に付いたかどうかをテスト: 50%、ミニツツペーパー: 30%、レポート課題: 20%により、総合的に判定する。 ※遠隔授業となった場合も同じ
関連科目	情報基礎演習、情報処理基礎演習、統計処理演習、情報科学Ⅱ
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前として教科書を読み予習をする。事後として教科書、資料等による復習をする。
実務経験のある教員による授業内容	民間企業にて計算機プログラム作成の経験がある。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	学部・学科によってクラスが指定されているので、時間割表で自分のクラスと担当教員を確認すること。 ※14 年度以前入学生の「情報科学」に相当

情報基礎演習

(Computer Literacy)

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1年（その他参照）	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも。ただし不在の場合があるのでメールで日程調整することが望ましい。			
メールアドレス	tsanada@fpu.ac.jp			
授業概要	大学での学修や卒業後の社会生活に必要な ICT リテラシー（パソコン操作に関する基本的な知識と技能）とデータリテラシー（データを読み解き、適切に活用する能力）の基礎を修得する。Windows パソコンの基本操作と管理、タイピング、文書作成やプレゼンテーション資料の作成、スプレッドシートの活用法、メールマナー、情報倫理とデータ倫理、情報セキュリティ、クラウドサービスの利活用方法等について課題を通して学習する。全 11 クラス開講する。			
到達目標	・ キーボードを見ずにタイピングができる。 ・ Windows の基本操作と自分のパソコンの基本的な管理ができる。 ・ 電子メールや Web ブラウザ、レポート等の文書やプレゼンテーション資料を作成するためのアプリケーションソフト、クラウドサービスを目的に応じて適切に使いこなせる。 ・ 情報倫理や情報セキュリティに関して基本的な知識を身に付けている。 ・ 大学での学修に関わるデータを扱う上での留意事項を理解し、身近なデータに対し簡単な集計や可視化ができる。			
授業計画・内容				
第 1 回 授業の進め方、オンライン授業で使用する各種システム、情報演習室の利用上の注意、学内無線 LAN（Wi-Fi）の設定				
第 2・3 回 ID とパスワードの管理、Windows の基本操作、附属図書館の案内				
第 4 回 タッチタイピング（課題 1）				
第 5 回 県大 Gmail の使い方、電子メールのマナーとセキュリティ				
第 6・7 回 文書作成：基本操作と応用操作（課題 2）				
第 8 回 情報セキュリティ				
第 9 回 プレゼンテーション資料の作成：基本操作と応用操作				
第 10 回 情報倫理、データ倫理				
第 11 回 生成 AI の利活用と利用上の注意点				
第 12 回 Windows の応用操作と管理（課題 3）				
第 13 回 クラウドサービスの利活用（データ共有と情報公開時の注意点、CMS の活用）				
第 14 回 スプレッドシートを用いたデータの集計・可視化（課題 4）				
第 15 回 まとめ				
遠隔授業となった場合、Zoom や FPU-LMS, GoogleClassroom を利用して授業を行う。				
授業の実施方法は、クラスや単位によって異なる。詳細は担当教員の指示に従うこと。				
キーワード	ICT リテラシー、パソコン管理、アプリケーションソフトの活用、データリテラシー			
教科書	教科書は使用しない。担当者が作成した Web 上の教材を利用する。			
参考書				
評価方法・評価基準	評価方法：各回の学習（40%）、課題（60%）※遠隔授業となった場合も同じ 評価基準：各回の学習内容をきちんとこなしているか、各課題の目標スキルを達成してい			

	るかを考慮して総合的に判定する。 詳細はFPU-LMS や GoogleClassroom に掲載する。
関連科目	情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ、情報処理基礎演習、統計処理演習、情報処理、プログラミング
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	民間企業にて計算機プログラム作成の経験がある。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	指定されたクラスで受講すること。 【対象学科】生物資源学科・創造農学科

情報基礎演習

(Computer Literacy)

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1年（その他参照）	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも。ただし不在の場合があるのでメールで日程調整することが望ましい。			
メールアドレス	tsanada@fpu.ac.jp			
授業概要	大学での学修や卒業後の社会生活に必要な ICT リテラシー（パソコン操作に関する基本的な知識と技能）とデータリテラシー（データを読み解き、適切に活用する能力）の基礎を修得する。Windows パソコンの基本操作と管理、タイピング、文書作成やプレゼンテーション資料の作成、スプレッドシートの活用法、メールマナー、情報倫理とデータ倫理、情報セキュリティ、クラウドサービスの利活用方法等について課題を通して学習する。全 11 クラス開講する。			
到達目標	・ キーボードを見ずにタイピングができる。 ・ Windows の基本操作と自分のパソコンの基本的な管理ができる。 ・ 電子メールや Web ブラウザ、レポート等の文書やプレゼンテーション資料を作成するためのアプリケーションソフト、クラウドサービスを目的に応じて適切に使いこなせる。 ・ 情報倫理や情報セキュリティに関して基本的な知識を身に付けている。 ・ 大学での学修に関わるデータを扱う上での留意事項を理解し、身近なデータに対し簡単な集計や可視化ができる。			
授業計画・内容				
第 1 回 授業の進め方、オンライン授業で使用する各種システム、情報演習室の利用上の注意、学内無線 LAN（Wi-Fi）の設定				
第 2・3 回 ID とパスワードの管理、Windows の基本操作、附属図書館の案内				
第 4 回 タッチタイピング（課題 1）				
第 5 回 県大 Gmail の使い方、電子メールのマナーとセキュリティ				
第 6・7 回 文書作成：基本操作と応用操作（課題 2）				
第 8 回 情報セキュリティ				
第 9 回 プレゼンテーション資料の作成：基本操作と応用操作				
第 10 回 情報倫理、データ倫理				
第 11 回 生成 AI の利活用と利用上の注意点				
第 12 回 Windows の応用操作と管理（課題 3）				
第 13 回 クラウドサービスの利活用（データ共有と情報公開時の注意点、CMS の活用）				
第 14 回 スプレッドシートを用いたデータの集計・可視化（課題 4）				
第 15 回 まとめ				
遠隔授業となった場合、Zoom や FPU-LMS, GoogleClassroom を利用して授業を行う。				
授業の実施方法は、クラスや単位によって異なる。詳細は担当教員の指示に従うこと。				
キーワード	ICT リテラシー、パソコン管理、アプリケーションソフトの活用、データリテラシー			
教科書	教科書は使用しない。担当者が作成した Web 上の教材を利用する。			
参考書				
評価方法・評価基準	評価方法：各回の学習（40%）、課題（60%）※遠隔授業となった場合も同じ 評価基準：各回の学習内容をきちんとこなしているか、各課題の目標スキルを達成しているか			

	るかを考慮して総合的に判定する。 詳細はFPU-LMS や GoogleClassroom に掲載する。
関連科目	情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ、情報処理基礎演習、統計処理演習、情報処理、プログラミング
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	民間企業にて計算機プログラム作成の経験がある。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	指定されたクラスで受講すること。 【対象学科】経済学科

情報基礎演習

(Computer Literacy)

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1年（その他参照）	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも。ただし不在の場合があるのでメールで日程調整することが望ましい。			
メールアドレス	tsanada@fpu.ac.jp			
授業概要	大学での学修や卒業後の社会生活に必要な ICT リテラシー（パソコン操作に関する基本的な知識と技能）とデータリテラシー（データを読み解き、適切に活用する能力）の基礎を修得する。Windows パソコンの基本操作と管理、タイピング、文書作成やプレゼンテーション資料の作成、スプレッドシートの活用法、メールマナー、情報倫理とデータ倫理、情報セキュリティ、クラウドサービスの利活用方法等について課題を通して学習する。全 11 クラス開講する。			
到達目標	・ キーボードを見ずにタイピングができる。 ・ Windows の基本操作と自分のパソコンの基本的な管理ができる。 ・ 電子メールや Web ブラウザ、レポート等の文書やプレゼンテーション資料を作成するためのアプリケーションソフト、クラウドサービスを目的に応じて適切に使いこなせる。 ・ 情報倫理や情報セキュリティに関して基本的な知識を身に付けている。 ・ 大学での学修に関わるデータを扱う上での留意事項を理解し、身近なデータに対し簡単な集計や可視化ができる。			
授業計画・内容				
第 1 回 授業の進め方、オンライン授業で使用する各種システム、情報演習室の利用上の注意、学内無線 LAN（Wi-Fi）の設定				
第 2・3 回 ID とパスワードの管理、Windows の基本操作、附属図書館の案内				
第 4 回 タッチタイピング（課題 1）				
第 5 回 県大 Gmail の使い方、電子メールのマナーとセキュリティ				
第 6・7 回 文書作成：基本操作と応用操作（課題 2）				
第 8 回 情報セキュリティ				
第 9 回 プレゼンテーション資料の作成：基本操作と応用操作				
第 10 回 情報倫理、データ倫理				
第 11 回 生成 AI の利活用と利用上の注意点				
第 12 回 Windows の応用操作と管理（課題 3）				
第 13 回 クラウドサービスの利活用（データ共有と情報公開時の注意点、CMS の活用）				
第 14 回 スプレッドシートを用いたデータの集計・可視化（課題 4）				
第 15 回 まとめ				
遠隔授業となった場合、Zoom や FPU-LMS, GoogleClassroom を利用して授業を行う。				
授業の実施方法は、クラスや単位によって異なる。詳細は担当教員の指示に従うこと。				
キーワード	ICT リテラシー、パソコン管理、アプリケーションソフトの活用、データリテラシー			
教科書	教科書は使用しない。担当者が作成した Web 上の教材を利用する。			
参考書				
評価方法・評価基準	評価方法：各回の学習（40%）、課題（60%）※遠隔授業となった場合も同じ 評価基準：各回の学習内容をきちんとこなしているか、各課題の目標スキルを達成してい			

	るかを考慮して総合的に判定する。 詳細はFPU-LMS や GoogleClassroom に掲載する。
関連科目	情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ、情報処理基礎演習、統計処理演習、情報処理、プログラミング
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	民間企業にて計算機プログラム作成の経験がある。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	指定されたクラスで受講すること。 【対象学科】看護学科

プログラミング A

(Basic Programming A)

担当教員名 眞田 嵩大							
科目区分 一般 選択		授業方法 演習		対象学年 1 年		開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー		随時受け付ける。ただし、事前にメールや口頭で日時を相談するのが望ましい。(図書館棟 2 階 204 号室)					
メールアドレス		tsanada@fpu. ac. jp					
授業概要		Python によるプログラミングを行う。条件分岐やループ、関数などあらゆるプログラミング言語に共通する考え方を中心に学ぶ。発展的な話題としてアルゴリズムの基礎（ソートや探索、計算量の概念）などにも触れる。					
到達目標		Python で条件分岐や繰り返し、関数が含まれたプログラムを作成できる。リストやグラフ構造、木構造などの基本的なデータ構造を理解し、プログラム上で扱える。ソートをはじめとした基本的なアルゴリズムの動作を説明できる。					
授業計画・内容							
第 1 回：プログラミングの考え方、フローチャート							
第 2 回：プログラミング環境の導入(Python, Google Collaboratry, VSCode)、プログラムの編集と実行							
第 3 回：情報の種類（整数型、文字列型、浮動小数点型）、変数と四則演算・論理演算							
第 4, 5 回：条件分岐(if)、繰り返し(for)、リスト							
第 7 回：ファイルの入出力							
第 8 回：並び替え（ソート）アルゴリズムの実装							
第 9 回：関数							
第 10 回：グラフ構造、木構造							
第 11 回：計算量と計算可能性							
第 12, 13 回：アルゴリズムの問題に挑戦							
第 14, 15 回：発展的な話題（高度なアルゴリズム、型と証明、データサイエンスの基礎、プログラムの意味論など）							
講義の内容は前後する場合がある。							
第 14, 15 回の発展的な話題は受講者の興味に応じて対応する。							
キーワード		Python、プログラミング、アルゴリズム					
教科書		なし（適宜資料を配布する）					
参考書		Bill Lubanovic 著、鈴木 駿 監訳、長尾 高弘 訳『入門 Python 3』O' REILLY Japan					
評価方法・評価基準		授業中に提出する課題(40%)とレポート(60%)					
関連科目		情報処理 D					
履修要件		情報基礎演習の単位を習得済みであること					
必要な事前・事後学修							
実務経験のある教員による授業内容		実務経験あり 民間企業で計算機プログラムを作成した経験がある。					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
その他							

情報処理 D

(Data Processing D)

担当教員名 眞田 嵩大				
科目区分 一般 選択	授業方法 演習	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールや口頭で日時を相談するのが望ましい。(図書館棟 2 階 204 号室)			
メールアドレス	tsanada@fpu. ac. jp			
授業概要	人工知能 (AI) の原理と応用を学ぶ。Python を用いてニューラルネットワークによる画像認識プログラムを作成する。これにより人工知能の特徴・有益性・限界・問題を実践的に知る。			
到達目標	ニューラルネットワークの基本的な動作原理を説明できる。 AI を使用・作成するうえでの倫理上の注意を理解し実践できる。 画像認識 AI を作成・改変できる。			
授業計画・内容				
授業計画 第 1 回：授業の進め方・成績評価について、AI の歴史 第 2, 3 回：実世界で進む機械学習の応用と発展、数学の予備知識 第 4, 5, 6 回：ニューラルネットワークの原理（パーセプトロン、微分積分との関係性、ディープニューラルネットワーク） 第 7 回：AI 倫理：AI の公平性や信頼性・説明可能性に関する諸問題および解決のアプローチ 第 8, 9 回：AI 開発環境と実行環境（Python, Google Colaboratory）の導入、Python プログラムの作成 第 10 回：既存の手書き文字画像認識プログラムを動かす 第 11 回：ニューラルネットワークの構造を変える 第 12 回：独自データセットをつくる 第 13, 14 回：ニューラルネットワークの学習を行う 第 15 回：レポートの作成 講義の内容は前後する場合がある。 ゲストスピーカーによる講義が行われる可能性がある。				
キーワード	人工知能 (AI)、機械学習、ニューラルネットワーク			
教科書	なし（適宜資料を配布する）			
参考書	斎藤 康毅『ゼロから作る Deep Learning』O' REILLY Japan			
評価方法・評価基準	授業中に提出する課題 (40%) とレポート (60%)			
関連科目	プログラミング A			
履修要件	情報基礎演習の単位を習得済みであること			
必要な事前・事後学修				
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 民間企業で計算機プログラムを作成した経験がある。			
施行規則に定める科目区分又は事項等				
その他				

職業指導論（水産）

(Vocational Guidance)

担当教員名 高橋 秀幸					
科目区分 教職 教科『水産』の免許は必修		授業方法 講義	対象学年 2～4 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー		授業の前後に質問等を受け付けます。			
メールアドレス		pt-htakahashi-g@g.fpu.ac.jp			
授業概要		職業指導とは生徒に職業選択や職業適性に関する支援を行う教育活動で、今日では進路指導・キャリア教育と言われている。職業指導は、単に就職指導・進学指導に限定されるものではなく、それぞれの生徒の自己実現に向けて、人間としてのあり方や生き方について考えさせなければならない。本講座では、社会状況の分析や職業についての考察を通じて、「職業指導」の意義を考え、職業指導の歴史的背景や実践について学習する。			
到達目標		1 学校教育における職業指導の在り方や意義を理解し、生涯にわたる職業観を育む指導ができる。 2 キャリア・カウンセリングの基礎知識を理解し、クラス担任または進路指導担当として生徒の進路指導が的確にできる。			
授業計画・内容					
第1回：授業ガイダンス、職業とは 第2回：人間社会と職業 第3回：若者の現状と社会情勢 第4回：高まる学校教育への期待、学習指導要領（水産、特別活動） 第5回：職業高校の今日の状況、課題と取り組み 第6回：職業意識形成の取り組み、中退・卒業後の支援 第7回：職業指導の意義、必要性 第8回：職業適性、個性、興味・関心と職業選択 第9回：職業指導の歴史的経緯 第10回：諸外国の職業教育 第11回：小中学校におけるキャリア教育 第12回：高等学校におけるキャリア教育（職業高校の取り組み） 第13回：キャリアカウンセリングの理論と技法 第14回：国民の勤労権と職業保障 第15回：進路指導の今後の課題、まとめ 第16回：定期試験 ※遠隔授業の場合の対応 Zoom、GC 併用による授業					
キーワード		キャリア教育 進路指導 職業指導			
教科書		特に指定しない。（適宜資料を配布）			
参考書		「高等学校学習指導要領・解説」（総則、特別活動、水産） 文部科学省 「キャリア教育ガイドブック」 経済産業省 「新時代のキャリア教育と職業指導」 佐藤史人ほか 法律文化社 など			
評価方法・評価基準		試験(40%)、レポート(40%)、授業への取組<主体的な取組態度、対話能力、出席状況など>(20%)を総合的に判定する。試験やレポートから知識の理解と習得の度合い、思考・判断・			

	表現力、授業への取組状況から主体性、関心、対話力を評価する。 ※遠隔授業の場合：レポート・質問等への回答等（50%）、試験（50%）とし、総合的に評価する。
関連科目	教職課程に関する科目
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	新聞等で教育、職業に関する最新情報について関心を持つ。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 職業高校での教諭や校長の勤務経験を活かして、職業指導に関する実務的な指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項 職業指導
その他	高等学校教諭（水産）の免許状を取得するための必修科目 準備学習については、教員が講義時に指示する。

農業科教育法 I

(Methods of Agricultural Education I)

担当教員名 高橋 秀幸				
科目区分 教職 必修	授業方法 講義	対象学年 1～4 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	授業の前後に質問等を受け付けます。			
メールアドレス	pt-htakahashi-g@g.fpu.ac.jp			
授業概要	高等学校農業科教育への情熱と使命感を持ち、専門的な識見と実践力を備えた農業科教員の育成を目的とする。農業科教育の理念と目標を踏まえ、高等学校学習指導要領における農業の各科目の内容や構成を体系的に学習する。また、農業高校の事例研究や農業に関する各種情報も活用して、生きた農業科教育を実践できるよう展開する。			
到達目標	1 高等学校学習指導要領に示された教科「農業」の理念と目標を理解し説明できる。 2 各科目の構成と内容を理解し、必要な教材を選定活用できる。 3 実験実習やプロジェクト学習を生かした学習指導ができる。			
授業計画・内容				
第1回：農業科教育法Ⅰの概要－講座内容・講座計画 第2回：農業教育について(1)－農業教育の歴史、目的 第3回：農業教育について(2)－農業教育の在り方、農業教師に求められるもの 第4回：学習指導(1)－農業科における学習指導の過程と農業実験・実習における学習指導 第5回：学習指導(2)－農業教育における学校農業クラブ活動の位置付け 第6回：学習指導(3)－農業教育における特色ある取組、地域との連携 第7回：学習指導(4)－農業教育の活性化策 第8回：学習指導(5)－農場における農業実習の実践 第9回：教育課程の編成(1)－農業科の目標、農業教科・科目の構成 第10回：教育課程の編成(2)－教育課程編成の基本、県内農業高校の教育課程 第11回：教育課程の編成(3)－人材育成の視点からの教育課程編成 第12回：農業学習の教育評価－教育評価の性質、農業学習における学習評価の対象と規準 第13回：農業科教員の服務－服務と関係法令－学校教育法、産業教育手当、産業教育振興法 第14回：農業教育の施設・設備および管理－意義、学校農場の性格、施設・設備の管理 第15回：農業教育の展望と課題－日本農業の現状を踏まえた今後の農業教育 第16回：定期試験 ※遠隔授業の場合の対応：Zoom、GC併用による授業				
キーワード	農業教員免許、農業教育、高等学校学習指導要領、教育課程、プロジェクト学習法、学校農業クラブ活動			
教科書	「高等学校学習指導要領 農業編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説書 農業編」(文部科学省)			
参考書	「月刊 産業と教育」(実教) (授業中に適宜資料を配付する。)			
評価方法・評価基準	試験(40%)、レポート(40%)、授業への取組＜主体的な取組態度、対話能力、出席状況など＞(20%)を総合的に判定する。試験やレポートから知識の理解と習得の度合い、思考・判断・表現力、授業への取組状況から主体性、関心、対話力を評価する。 ※遠隔授業の場合：レポート・質問等への回答等(50%)、試験(50%)とし、総合的に評価する。			

関連科目	農業科教育法Ⅱ、教職課程に関する科目群
履修要件	教育改革等に関する最新の情報及び我が国や海外の農業や農政等について関心を持ち、事前学習をしておくことが望ましい。
必要な事前・事後学修	高等学校学習指導要領農業編および高等学校学習指導要領解説書農業編の学習
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 農業高校での教諭や校長の勤務経験を活かして、農業教育に関する実務的な指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
その他	高等学校教諭（農業）の免許状を取得するための必修科目

農業科教育法Ⅱ

(Methods of Agricultural Education Ⅱ)

担当教員名 高橋 秀幸				
科目区分 教職 必修	授業方法 講義・演習	対象学年 1～4 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	授業の前後に質問等を受け付けます。			
メールアドレス	pt-htakahashi-g@g.fpu.ac.jp			
授業概要	農業科教育法Ⅰの内容を深化させ、原則履修科目「農業と環境」における指導計画、学習指導案等の作成や模擬授業を通して、農業科教育の実践的な指導能力と指導技術の習得をめざす。また、教材作成や模擬授業の中で、情報機器、視聴覚教材の効果的な活用方法を研究する。			
到達目標	1 「農業」に関する学習内容について理解し、学習指導への位置づけを考察できる。 2 原則履修科目「農業と環境」における年間指導計画案を作成できる。 3 授業の目的、内容、教材に即した学習指導案が作成できる。 4 教科「農業」の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業に活用できる。			
授業計画・内容				
第1回：農業科教育法Ⅱの概要－講座内容・講座計画 第2回：学校現場における農業教育実践の現状と課題 第3回：学習指導の類型(1)－授業形式と学習内容からみた農業学習指導の分類 第4回：学習指導の類型(2)－農業科のプロジェクト学習法による学習指導－事例と研究 第5回：学習指導の類型(3)－学校農業クラブ活動による学習指導－意義、目標、組織と活動 第6回：学習指導計画の作成(1)－学習指導計画の意義、学習指導計画作成の前提、学習指導計画の具体例と作成 第7回：学習指導計画の作成(2)－年間指導計画案の作成と検証 第8回：学習指導計画の作成(3)－年間指導計画案の作成と検証 第9回：学習指導計画の作成(4)－単元指導計画案の作成と検証 第10回：学習指導計画の作成(5)－単元指導計画案の作成と検証 第11回：学習指導案の作成と授業の進め方(1)－学習指導案の作成、ICTを活用した授業の進め方 第12回：学習指導案の作成と授業の進め方(2)－教材づくりのポイント、教材作成 第13回：授業実践・研究協議(1)－模擬授業、自己評価とグループ評価 第14回：授業実践・研究協議(2)－模擬授業、自己評価とグループ評価 第15回：授業実践・研究協議(3)－模擬授業、自己評価とグループ評価 第16回：定期試験 ※遠隔授業の場合の対応：Zoom、GC併用による授業				
キーワード	学習指導計画、学習指導案、模擬授業、ICT活用、教員採用試験、教育実習			
教科書	「高等学校学習指導要領 農業編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説書 農業編」(文部科学省)			
参考書	授業中に適宜資料を配付する。			
評価方法・評価基準	レポート(50%)、模擬授業の内容と発表(30%)、授業への取組<主体的な取組態度、対話能力、出席状況など>(20%)を総合的に判定する。レポートや模擬授業の実践から知識・技術の習得の度合い、表現力など、授業への取組状況から主体性、関心、対話力を評価する。			

	※遠隔授業の場合：レポート・質問等への解答等（50%）、試験（50%）とし、総合的に評価する。
関連科目	農業科教育法Ⅰ、教職課程に関する科目群
履修要件	農業科教育法Ⅰを履修していること。
必要な事前・事後学習	高等学校学習指導要領農業編および高等学校学習指導要領解説書農業編の学習
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 農業高校での教諭や校長の勤務経験を活かして、農業教育に関する実務的な指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目 各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
その他	高等学校教諭（農業）の免許状を取得するための必修科目

教育実習

(Practice for Teaching Profession)

担当教員名 國崎 大恩				
科目区分	教職 必修	授業方法 実習	対象学年 3・4 年	開講期 前期集中 単位数 3
オフィスアワー	木曜日 3 限 経済学部棟 4 階 407			
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp			
授業概要	教育実習は、観察・参加・実習という方法により学校教育の実際に関わることを通して、教師としての愛情と使命感を深め、自らの資質・能力や適性を考えるとともにその課題を自覚する機会である。また、学校教育を実際に体験することによりその総合的理解を深めることができるだけでなく、教育実践ならびに教育実践研究の具体的・基礎的な能力と態度を身につけることができる。したがって、教育実習がより有意義なものとなるよう事前・事後指導も行う。			
到達目標	教育実習の目標は、学校教育と実際に関わることを通して、生徒の実態や学級経営・教育活動等について総合的に理解するとともに、指導・支援のための基礎的な指導力を身につけることにある。具体的な到達目標は以下の通りである。 1) 現時点での教育者としての資質・能力をみきわめ、今後の教師としての成長課題を説明することができる。 2) 学校の組織や教職員の役割・職務内容について具体的に説明することができる。 3) 生徒の実態や課題を把握し、それらをふまえた指導・支援方法を考えることができる。 4) ICT の活用やアクテ			
授業計画・内容				
事前・事後指導の日程は掲示板により連絡するため、忘れず確認すること。 (1) 事前指導の内容 1. 1 年次 1 月 : 教職オリエンテーション 2. 2 年次 1 月 : 実習に関するオリエンテーション(実習校への依頼について) 3. 3 年次 1 2 月～2 月 : 教職に関する講話(1) 高校教員の仕事、(2) 学校を取り巻く社会環境の変化 4. 3 年次 1 月～2 月 : 実習事前指導(1) 実習全般について 5. 3 年次 2 月 : 教育関係施設における見学実習(特別支援学校) 6. 4 年次 4 月 : 教職に関する講話(3) 生徒理解について 7. 4 年次 4 月～5 月 : 実習実践指導(指導案作成、模擬授業) 8. 4 年次 4 月～5 月 : 実習事前指導(2) 実習中の留意事項、(3) 実習にむけた心構え (2) 教育実習 4 年次 5 月～6 月 : 2 週間の実習校における実習 (3) 事後指導の内容 4 年次 7 月～8 月 : 教育実習の振り返りー授業実践・生徒理解の実態と課題ー ※事前指導・事後指導が遠隔授業となった場合は zoom によるオンライン授業を実施します				
キーワード	学習指導、生徒指導、学級経営、教育実践			
教科書	適宜、プリントを配布する。			
参考書	『増補版 教育実習ハンドブック』柴田義松・木内剛、学文社、2012 年。 『教育実習完璧ガイド』宮崎猛・小泉博明、小学館、2015 年。			
評価方法・評価基準	評価方法：実習校での評価(80%)、実習日誌を含むポートフォリオ(20%)※遠隔時も同様 評価基準：授業目標に掲げた 4 観点について、実習校での評価・実習日誌・ポートフォリオにより総合的に評価を行う。			

	※遠隔時も同様
関連科目	教職科目のすべて
履修要件	3 年次までに、教師論、教育原理、教育心理学、各科教育法 I の単位を修得した者だけが、4 年次の教育実習に参加できる。
必要な事前・事後学修	事前学修：事前指導の内容をしっかりと理解し、自分なりの明確な課題を明確にする。 事後学修：自分に欠けている教師の資質能力が何かを考え、教師として自分が今後どのように成長していけばよいのかを明確にする。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 学校現場において教員経験のある教員が、その経験を活かして、実践的に指導をおこなう。
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育実習
その他	教育実習をより有意義なものとするため、何事にも積極的に取り組んで下さい。 事前指導、事後指導の欠席はやむを得ない場合を除き、基本的に認めません。

道徳教育の理論と実践

(Studies of Moral Education)

担当教員名 坂本栄次郎				
科目区分 教職（その他参照）	授業方法 講義・演習	対象学年 1・2・3 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	授業前後に質問等に対応する			
メールアドレス	eijirosakamoto2000@yahoo.co.jp			
授業概要	「特別の教科 道徳」が現在のような教科として成立するまでに至る歴史的経過を戦前から戦後、現在に至るまでの社会的変化に対応させて学んでいく。さらに道徳教育の展開と道徳科の指導については具体的に模範授業を見せたり模擬授業をしたり、近隣の学校に出かけて授業見学することも計画したい。 また、この授業の中では道徳的指導力を育成するため、新聞記事の中から道徳的価値を見つけ、発表する時間を設ける。			
到達目標	道徳という教科の歴史的背景とその本質を理解させる。また、道徳教育が道徳という教科の授業だけでなく教育活動全般を通じて行うものであることを十分に理解し、多様な指導法を身に着ける。 また、生徒の前に立った時、生徒と共に学んでいくという謙虚な気持ちで、押し付ける道徳ではなくみんなでいっしょに考え議論する道徳を実践できる基礎を身に着けさせる。			
授業計画・内容				
全 15 回シリーズ 第 1 回 オリエンテーション 道徳教育の基礎理論（総論） 第 2 回 道徳とは何か、道徳性とは何か 第 3 回 道徳の目標および子供の心の成長と道徳性の発達 第 4 回 戦前・戦後の道徳教育の歴史と精神 第 5 回 日本の道徳教育の歴史を踏まえ「特別の教科 道徳」を考察する 道徳科の学習指導の展開、多様な授業展開 第 6 回 諸外国の道徳教育と現代社会の道徳教育の課題の理解 第 7 回 道徳教育の計画 第 8 回 道徳科の基本方針 第 9 回 道徳教材の活用と体験的な学習 第 10 回 考え議論する道徳による問題解決的な学習 第 11 回 道徳教育 指導の配慮事項 第 12 回 養護教諭に求められる道徳的指導力 第 13 回 演習「模擬授業の実践」「授業研究会」、授業改善のありかた 第 14 回 演習「模擬授業の実践」「授業研究会」、授業評価のありかた 第 15 回 児童・生徒理解と道徳教育授業者に課せられる課題 特別な教科「道徳」に関してレポートにまとめる 遠隔授業の場合の対応について・・・ZOOMでのオンライン授業、LMSへの課題提出				
キーワード	教育活動全体で行う道徳教育 特別な教科「道徳」 考え議論する道徳 主体的で対話的な深い学び 道徳的心情 道徳的判断力 道徳的態度			
教科書	小・中学校学習指導要領解説―特別の教科―道徳編（文部科学省） どちらか一方			

参考書	授業中に適宜配布する
評価方法・評価基準	レポート（５０％） 授業での小課題、模擬授業にでの実践および課題のプレゼン（５０％） 遠隔授業の場合 ZOOMでの課題のプレゼン・模擬授業・レポートの提出
関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	各自事前の課題についてプレゼンできるように準備すること 配布資料の予習・復習
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 小中学校で担任をしていたころに毎週道德の授業を経験
施行規則に定める科目区分又は事項等	※養護教諭一種免許状を取得する場合は「道德、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容」 看護学科以外は「大学が独自に設定する科目」
その他	【科目区分】養教一種免許は必修・高校一種免許は選択

学校インターンシップ（学校体験活動）B

(School Internship B)

担当教員名 國崎 大恩					
科目区分	教職 選択	授業方法 実習	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	木曜日・3 時限目				
メールアドレス	taion@fpu.ac.jp				
授業概要	・永平寺町内の小中学校において、児童生徒への学習支援や適応支援、授業準備や事務業務の補助、部活動の補助業務、学校行事での補助業務など、各種支援・補助活動を行う。 なお、具体的な活動内容は派遣先の学校に応じて異なる。 ・インターンシップ先での活動内容等を活動記録表に毎回記入し、活動終了後に提出する。				
到達目標	1) 児童生徒の実態や課題を理解し、学校現場の実情について説明できる。 2) 学級運営や学校運営に関する教育活動の特色や工夫について説明できる。				
授業計画・内容					
第 1 回：ガイダンス 1（実習の目的と留意点） 第 2 回：ガイダンス 2（実習校の説明と決定） 第 3 回～1 4 回：各学校での実習・・合計 2 4 時間以上 （例：1 週 1 回 2 時間× 1 2 週＝ 2 4 時間） （例：1 週 1 回 2 時間×10 週＋ 1 週 1 回 1 時間× 4 週＝ 2 4 時間） 第 1 5 回：まとめとふり振り返り ※第 1 回と第 2 回の授業のみ永平寺 C で実施する。第 3 回以降は、各学生と実習校が個別に協議・調整した上で、実施日時・内容を決定する。 遠隔になった場合：実習受け入れ校との協議により対応					
キーワード	学校インターンシップ、学校体験活動				
教科書	なし				
参考書	適宜、提示する				
評価方法・評価基準	活動記録表（50%）、最終レポート（50%） 遠隔になった場合：対面時と同じ 評価基準：学校現場においておこなった自分の活動について活動記録表やレポートを通して分かりやすく説明できているかを評価する。				
関連科目	学校インターンシップ（学校体験活動）A、教育実習				
履修要件	教職課程を履修していること				
必要な事前・事後学修	事前学修：活動の見通し、目標設定 事後学修：活動の振り返り、活動記録表の記録				
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり				

	小学校での教員経験がある教員が指導します
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目
その他	

中国語Ⅲb

(ChineseⅢb)

担当教員名 加藤 錦霞					
科目区分	一般 選択	対象学年	2・3・4	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	授業前後に対応する		授業方法 講義		
メールアドレス	教室で知らせる				
授業概要	一年間の初級中国語を習得したことを前提に、文法知識と新しい語彙の拡充をはかり、会話練習、さらなる作文を行います。具体的に一人一人の発音を確認し、提出する作文を添削し、話す、聞く、書くことなどを全面的に学習していきます。				
授業目標	この授業を通して、すでに初級に習った内容の上、新たに学ぶ語彙や文法を用いて、作文能力、文章の読解力、およびコミュニケーション能力を身に着けるようになること、そして、一人一人の発音を確認し、正しい発音で、会話出来ることと中国語検定試験三級を合格することを目指します。				
授業計画・内容					
第1回： 初級内容の復習					
第2～3回： 我常常说汉语。(週末の予定など)					
第4～5回： 你喝啤酒还是喝可乐(レストランでの注文の仕方)					
第6～7回： 我想请你听音乐会(相手を誘い、音楽会に行く)					
第8～9回： 你最喜欢什么体育运动(あなたの一番好きなスポーツは何ですか)					
第10～11回:祝你生日快乐(お誕生日おめでとうございます)					
第12～13回:骑自行车有哪些好处呢。(自転車を利用するのはどんなメリットがあるか)					
第14～15回： 我还不太习惯吃中国菜(私は中華料理を食べる のがまた慣れてない)					
遠隔授業になった場合のツール:ZoomとGCです。					
キーワード	中国語 多听 多说 多看				
教科書	毎回授業用の資料を配布する(受講者のレベルに応じ、内容変更する場合がある)				
参考書	中国語辞書の携帯を推奨する 中国にある大学で留学生向けのテキストを使用する				
評価方法・評価基準	学習態度・小テストおよび期末テストの成績で評価する。 遠隔授業となった場合も同じです。				
関連科目	中国語Ⅰ．Ⅱ				
履修要件	中国語Ⅰ、Ⅱを履修していること、あるいは同等の中国語の能力を持つ人				
必要な事前・事後学修	授業内容の予習と復習することを望ましい。				
実務経験のある教員による授業内容	中国の大学での教員経験に基づき、中国の大学生活、中国の過去と現在を講述する。				
その他	授業内容は変更する場合がある				

中国語IVb

(Chinese IVb)

担当教員名 加藤 錦霞					
科目区分	一般 選択	対象学年	2・3・4	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	授業前後に対応する		授業方法 講義		
メールアドレス	教室で知らせる				
授業概要	一年間の初級中国語を習得したことを前提に、文法知識と新しい語彙の拡充をはかり、会話練習、さらなる作文を行います。具体的に一人一人の発音を確認し、提出する作文を添削し、話す、聞く、書くなどを全面的に学習します。				
授業目標	この授業を通して、すでに初級に習った内容の上、新たに学ぶ語彙や文法を用いて、作文能力、文章の読解力、およびコミュニケーション能力を身に着けるようになること、そして、一人一人の発音を確認し、正しい発音で、会話出来るように、話す、聴く、書く能力を全面的にレベルアップすることと中国語検定試験三級合格することを目標とします。				
授業計画・内容					
第1～2回： 去什么地方买东西好(表示后悔/推论/表示情况的变化) 第3～4回： 我打算周末去看电影(表示猜测/建议/服从) 第5～6回： 你想去什么地方旅游呢（说明计划安排） 第7～8回： 学校里是不是有很多地方可以上网(用反问的形式强调自己的看法) 第9～10回： 你得了流行性感冒（去医院看病用语） 第11～12回： 我还是喜欢有更多发展机会的工作(表示无奈/表示概括) 第13～14回： 春节是中国最重要的节日(表示比较/加强反问语气) 第15回： 総復習 遠隔授業になった場合のツール:ZoomとGCです。					
キーワード	中国語 多听 多说 多看				
教科書	毎回授業用の資料を配布する(受講者のレベルに応じ、内容変更する場合がある)				
参考書	中国語辞書の携帯を推奨する 中国にある大学で留学生向けのテキストを使用する				
評価方法・評価基準	学習態度・小テストおよび期末テストの成績で評価する。 遠隔授業となった場合も同じです。				
関連科目	中国語Ⅰ．Ⅱ				
履修要件	中国語Ⅰ、Ⅱを履修していること、あるいは同等の中国語の能力を持つ人				
必要な事前・事後学修	授業内容の予習と復習することを望ましい。				
実務経験のある教員による授業内容	中国の大学での教員経験に基づき、中国の大学生活、中国の過去と現在を講述する。				
その他	授業内容は変更する場合がある				